

# 令和3年度 第1回横浜市創造界限形成推進委員会

## 次 第

日時：令和3年7月14日（水）  
10時00分～12時00分  
実施方法：WEB会議形式  
（事務局）横浜市役所18階共用会議室さくら16

### 【議題】

- 1 審議事項
  - (1) 令和2年度事業評価について
  - (2) 旧老松会館の公募要項について 【非公開】
- 2 報告事項
  - (1) 旧第一銀行横浜支店の検討状況について 【非公開】
  - (2) 今後の創造都市施策の方向性の検討「これからのクリエイティブシティ・ヨコハマを考える」について

### 【資料】

- ① 次第
- ② [資料1] 委員名簿
- ③ [資料2] 前回議事録（令和3年3月24日開催分）
- ④ [資料3] 令和2年度事業評価シート
- ⑤ [資料4] 旧老松会館の公募要項について 【非公開】
- ⑥ [資料5] 旧第一銀行横浜支店の検討状況について 【非公開】
- ⑦ [資料6] 創造都市施策の方向性の検討「これからのクリエイティブシティ・ヨコハマを考える」について

## 横浜市創造界限形成推進委員会委員名簿(9名)

氏名	所属団体(役職名)		分野	出欠
◎野原 卓	横浜国立大学大学院	准教授	都市計画	○
○六川 勝仁	馬車道商店街協同組合	理事長	経営と地元	○
遠藤 新	工学院大学建築学部	教授	都市計画	○
岡本 純子	公益財団法人セゾン文化財団	プログラム・オフィサー	舞台芸術	○
菅野 幸子	アーツ・プランナー/リサーチャー		アート/国際交流	○
重松 久恵	ブランド・マネジメント・コンサルタント		創造産業	○
日沼 禎子	女子美術大学 芸術学部	教授	アートマネジメント	欠席
藁谷 則美	(株)ミノヤアソシエイツ	代表取締役	まちづくり	○
山口 真樹子	ゲーテ・インスティテウト東京	コミュニケーション・広報	国際交流/舞台芸術	○

◎…委員長

○…副委員長

令和 2 年度第 5 回横浜市創造界限形成推進委員会会議録	
日 時	令和 3 年 3 月 24 日（水）10 時 00 分～11 時 40 分
開催場所	開催方法：WEB 会議（事務局設置：横浜市役所共用会議室さくら 16）
出席者	野原委員長、六川副委員長、遠藤委員、岡本委員、菅野委員、重松委員、日沼委員、 簗谷委員、山口委員、恵良氏
欠席者	なし
開催形態	一部非公開
議 題	1 審議事項 （1）令和 3 年度事業計画及び事業評価軸について （2）文化芸術創造発信拠点形成事業の期間延長について 2 報告事項 旧第一銀行横浜支店及び旧老松会館の公募に向けた進捗について 3 その他
決定事項	
事務局	【開会】 ○令和 2 年度第 5 回横浜市創造界限形成推進委員会を開始する。
事務局	【資料確認】 ○配付資料の確認が行われた。
事務局	【定足数の確認】 ○委員 9 名中 9 名が出席しており、委員会の成立となる。
事務局	【会議の公開・非公開】 ○本会議は横浜市の保有する情報の公開に関する条例第 31 条により原則公開となるが、審議事項（2）「文化芸術創造発信拠点形成事業の期間延長について」及び報告事項「旧第一銀行横浜支店及び旧老松会館の公募に向けた進捗について」は、同条例第 7 条第 2 項第 5 号に当たるため非公開とするが、よろしいか。 （了承）
野原委員長 簗谷委員	<b>審議事項（1）：令和 3 年度事業計画及び事業評価軸について</b> ＜事務局より説明が行われ、議題について審議が行われた。＞ ○各分科会の議長からも説明をお願いします。 ○BankART1929 は、分散型の実験事業であり、次年度からは R16 は使用できなくなり、KAIKO と Station の 2 本柱での活動になる。次年度の事業内容については、基本的にはこれまでの取組と大きく違いはない。分科会にて、運営団体にコロナ禍を踏まえた新たな取組という点を確認したところ、コロナ禍であってもリアルということを最大限重視してやっていきたいという話があった。それも一つの考え方だと分科会

	山口委員	<p>としては感じており、次年度も引き続き頑張っていたきたい。</p> <p>○旧老松会館は、稽古場であるという場所の性質上、コロナ禍ではかなりご苦労なさっていた。レンタル事業の料金が落ち込んでいたが、一方光熱費等が浮いた部分もあり、財政的にはそんなに大変な状況ではなかったと理解している。前年に開始した「インサイドアウト」と題した、表舞台には出ないが舞台芸術の創作活動において非常に重要な機能を果たしている音響や制作といった職能に光を当てるインタビュー動画は、内容も非常に良くて、来年度の継続も楽しみにしている。また、以前の分科会でも意見や提案があったアーティストに考えてもらう子供向けワークショップを計画しているので大変楽しみにしている。急な坂スタジオとして運営が始まってからちょうど 15 周年を迎えるので、状況を見ながら、色々なことができればと思っている。</p>
	日沼委員	<p>○黄金町は、特にアーティスト・イン・レジデンスを柱にしているため、感染予防の観点から大変ご苦労されたという話を聞いている。黄金町の場合は、中長期でスタジオを利用するレジデントと招聘型の2種類があるが、どのように発表の場につなげていくかを工夫している。例えば、海外の招聘事業のアーティストであれば、長期滞在しているアーティストたちのコミュニティを使って、リモートで招聘アーティストの指示のもと、地元アーティストが作品をつくることにトライしてみようとか、あるいはバザールであれば、プロフェッショナルに制作に入ってもらい、リモートでの設営を行うなど、様々な工夫をしている。次年度もリアルな国際交流を前提にはしているものの、臨機応変に対応していくにはリモートのやり方をもっと工夫していく、これから検証しながら取り組んでいく必要があるとお話しされていた。また、この分科会では、アートによるまちづくり、安心・安全なまちづくりのゴールはどうするのが毎回議論になる。どのように行政とNPOが共通のゴールを認識し、進めていくか。この共通認識を持たなければ、これまでの努力の成果が失われてしまうおそれもあるので、非常に懸念される意見があった。また、令和8年度で一旦京浜急行電鉄との契約が満了するため、これからの事業計画のためにはゴール設定が非常に重要だという意見もあった。</p>
	菅野委員	<p>○象の鼻テラスは、無料休憩所という性格もあり、コロナ禍で一定の集客がある中で様々な文化イベントをやってきており、そういった困難さはほかの施設と同様にあった。ただ、その中で、デジタルの活用と国内アーティストの支援のための展示に事業内容を切り替えて、かなり臨機応変に事業の組立てを行ってきたことは非常に高く評価している。デジタルの可能性をこれからも積極的に取り入れていきたいということで、その中に新しい事業の可能性も生まれてくると思うので、そういった姿勢は積極的に私たちも応援したいと思う。また、これまでは象の鼻テラスを中心に活動していたが、国際文化交流の一環であ</p>

	<p>る PORT JOURNEYS では、横浜市と姉妹都市提携などを組んでいる都市とディレクターズ会議を継続して実施してきており、多彩なプログラムをつくってきている。その一端として、昨年からの鶴見小野を舞台としたアートイベント「weTrees Tsurumi」というプロジェクトを開催するため、今年度は準備をしてきた。しかし海外からアーティストが来日できないということになり、プロジェクトを具体化することができず、地域とのコミュニケーションをどのように取っていくかというところが困難であったという報告があった。その他に、象の鼻テラスだけでなく、山下公園へのカフェ出店など、幅広い地域での活動もこれから活発にしていきたいという話も出た。また、象の鼻テラスとしても、横浜市の文化政策がこれからどんな形で展開されていくのか気にしており、創造界隈全体の政策にさらなるドライブをどうかけていくかといったことも課題なのではないかという指摘があった。</p> <p>野原委員長 ○THE BAYS もコロナの影響で、リアルで検討していた取組が難しい状況になったが、比較的早い段階からオンラインへの切り替えが導入され、企画の内容は大きく変えずに進めることができたことは、民間のスピード感をポジティブに活用できたためと言える。特に前半期は、行政の取組は対面前提のためにストップしていたところもあると思うが、その辺は比較的早くに動けたので、機動力を発揮できたのではないかと。その結果、コロナ対策もありながら、シェアオフィスの需要が増え、会員数も少し伸びたので、来年度も状況を見ながら、ニューノーマルな場所の使い方を検討できるような組上があった部分が評価された。一方、課題としては、毎回指摘があるが行政と拠点との連携や並走。どういった形で横浜市と一緒に場所をつくっていくかに関しては、常々課題を感じているので、そのあたりで、他の拠点も目指す方向性のゴールはどこにあるのかが少し見えにくくなっているという問題点が出てきていると思う。他拠点にも共通すると思うが、どこを目指してクリエイティブシティ施策をやっていくのか、ここをもう少し明確にすると、お互い情報を共有しながら進められるのではないかと。2つ目に、活動を頑張っているが、それが一部のネットワークの中でしか認知されていないのではないかと。改めて創造界隈拠点としての認知をどう上げていくかは課題である。3つ目に、DeNA ベイスターズと協働しているが、市の施策の中では、コミュニティボールパーク化構想あるいは横浜スポーツタウン構想という意味で、スポーツとクリエイティブを掛け合わせながら街に広げていくところが期待されているわけである。当初挙げているような構想と、個々の活動のつながりが少し見えづらくなっている中で、ツーリズムも掲げている中で、これまで目標としているコミュニティボールパーク化構想や都心臨海部あるいは横浜エリアとのつながりがある形で事業が進められるといいのではないかと。</p>
--	---

恵良氏	<p>○この時期だから、外へ、街へ、そしてオープンスペースの活用に積極的に取り組むべきだと感じている。そのときに、個々のオープンスペースの活用と同時にオープンスペースをネットワーク的に捉えていただくと、山下公園、象の鼻、赤レンガパーク、日本大通りなどの在り方が分かる。見え方も良くなると思う。無理につなげなくても、そういうつながり感を見せると、都市の見え方がちょっと変わってくる。パブリックスペースとオープンスペースのネットワークの意識を少しずつ出していくことが、これからの方向性と視点だろう。拠点の機能的連携と同時に、空間の連携意識があることに横浜都心部の場所的意味があることも含めての意見である。また、当財団の広報・ACY のツールもかなり整ってきているので、各施設のプレゼンスを高め、創造限界拠点全体を見せていくことが必要な時期に寄与できると思う。一緒に創造都市を盛り上げていきたいと考えている。</p>
岡本委員	<p>○今年の急な坂スタジオの取組で広がりがあったのは、Creative Railway からのつながりで、横浜高速鉄道と連携して「ききみみ」を実施したこと。各駅のストーリーを作り、それを朗読して、配信するというものなのですが、横浜高速鉄道の方に詳しくインタビューした上で物語をつくったということもあり、横浜高速鉄道でも積極的にPR してくださっている。急な坂スタジオは稽古場であり、一般の方がいらっしゃる機会がなかなかつくりにくい中で、新しいアクセスの機会になったのではないかと、この時期だからこそその効果的な取組ができたのではないかと思っている。あとは、改めて広報をまとめていただき、いろいろきちんと広報をしていることが分かり、非常に参考になった。どうしてもイベント絡みにせざるを得ないところがあり、若干の偏りがあるところは気になるので、少ないところも今後積極的に取り上げていただけるといいかなと思う。</p>
事務局	<p>○「ききみみ」については、横浜高速鉄道さんが非常に気に入ってくださり、Creative Railway をきっかけに、そういった新たな交流が生まれた。</p>
菅野委員	<p>○広報に併せて、今回コロナということもあって、各拠点でデジタルの活用をすごく頑張っていると思うのだが、今の時代、デジタルにどういった媒体を載せるかがすごく重要になってきている。そういった中で SNS といった発信では、短くても動画がすごく重要になっている。来年度は動画プログラムの開発やノウハウの支援にも力を入れてもいいのではないと思う。</p>
遠藤委員	<p>○初黄・日ノ出町ですが、今の NPO としてはコロナ禍の今年1年をどうやって乗り切るかというのがあったのだが、令和8年度の京浜急行との高架下利用の契約満了の時期に向けては、どちらかという短期的な活動しか目指していけないということが明らかになった気がする。一方で、先ほどもあったように、長期的な目標をどうしていくのが、</p>

	<p>事務局</p> <p>野原委員長</p> <p>事務局</p>	<p>今回の分科会の中でもかなり時間を割いた議論になった。日ノ出町のエリアは、安全・安心のまちづくりとアートの活用において、一定の成果を出してきた一方で、その次の目標がなかなか明示できていない。ここに関しては、都市整備局や地元自治会、様々なステークホルダーときちんと検討しながら長期的な将来像をつくっていかねばいけないため、分科会内の意見交換だけでは限界があると感じる。進め方や検討に対するアドバイスについては、分科会レベルではなく委員会レベルで経過を見守っていきながら、場合によっては進め方のサポートを考えていったほうが良いと思った。</p> <p>○分科会でも非常に参考になるご意見を頂いた。京浜急行電鉄やYADOKARIなどの新たなプレーヤーも入ってきている。街自体も以前の違法飲食店があった頃と比べると、変化が表れてきている中で、次のステージに向かい、10年後に街をどうしていきたいかのゴールを関係者で共有しながら、具体的な対策を打っていくことが必要だと思う。場合によっては委員会レベルでの議論のために、内容を報告するなどしていければと思う。</p> <p>○質問、意見がなければ、審議事項（1）については了承とする。</p> <p><b>審議事項（2）文化芸術創造発信拠点形成事業の期間延長について</b>      &lt;事務局より説明が行われ、議題について審議が行われた。&gt;</p> <p><b>報告事項：旧第一銀行横浜支店及び旧老松会館の公募に向けた進捗について</b>      &lt;事務局より説明が行われ、議題について意見交換が行われた。&gt;</p> <p><b>その他</b>      &lt;事務局より情報提供が行われた。&gt;</p> <p>○これをもって、第5回横浜市創造界限形成推進委員会を終了する。委員の皆様、長時間ありがとうございました。</p>
<p>資 料</p>		<p>①次第</p> <p>② [資料1] 委員名簿</p> <p>③ [資料2] 前回議事録（令和3年1月22日開催分）</p> <p>④ [資料3] 令和3年度事業計画及び事業評価軸</p> <p>⑤ [資料4] 文化芸術創造発信拠点形成事業の期間延長について</p> <p>⑥ [資料5] 旧第一銀行横浜支店及び旧老松会館の公募に向けた進捗について</p>
<p>特記事項</p>		

# 令和2年度 事業評価シート

拠点名: 初黄・日ノ出町文化芸術拠点

運営期間: 平成31年度～令和3年度 (2年目/3年間)

**【基本方針(使命・理念)】**  
**◆安心・安全のまちづくりを最優先に位置づけ、以下の理念を基に文化芸術によるまちづくりを行う**  
 ①文化芸術の力で新しい価値観を産み出し、地域の活性化  
 ②NPO法人を中心に、地域、企業、行政、警察、ボランティア等を巻き込んだ新しいスタイルの事業運営  
 ③産業の振興や暮らしやすいまちづくりへの持続的な展開  
 ④大学、研究機関等との連携により、まちの活性化、地域再生のモデル地区として全国に発信する

I 運営/経営評価		実施結果	事業評価	
評価軸			自己評価(成果・課題)	委員会評価
1 全体事業収支	1 全体事業収支	[経常収益計] 128,900,520円 [経常費用計] 121,508,519円 [(税引後)当期正味財産増減額] 5,854,001円	横トリ連携セット券販売や関連イベントなどの収益があり、大幅な黒字決算となった。また、アーティスト支援として大口の寄付もあった。事業収支の管理とともに支援者の幅を広げる努力を今後も行いたい。	新型コロナウイルス感染症対策を求められる中で、横浜トリエンナーレなどの大きなイベントとの連携にも取り組み、かつ収入も確保したことは評価したい。
2 事業収入	2 <input type="checkbox"/> 黄金町バザール(チケット収入等) <input type="checkbox"/> 黄金町芸術学校(受講料) <input type="checkbox"/> 高架下スタジオ利用料 <input type="checkbox"/> その他物件家賃収入 <input type="checkbox"/> ギャラリー等販売手数料 <input type="checkbox"/> 視察受け入れ <input type="checkbox"/> その他	[黄金町バザールチケット販売収益] 単体券1,294,900円 セット券3,284,550円 [黄金町芸術学校受講料収益] 95,000円 [高架下スタジオ利用料(短期利用)] 814,925円 [その他物件家賃収益] 19,620,170円 [ギャラリー等作品販売収益] 674,324円 [視察料金] 0円	コロナ禍によりイベント実施や講座開催を控えたため、関連収益は減少した。また、スタジオ入居者募集も停止していたため、家賃収益は前年度と比べ減少した。	この時機を利用して施設の改修を進め、新たな事業へとつなげていることは評価できる。  体調を崩したアーティストを共用施設を使わないような部屋に移動させるなど、スペースを生かした対応ができていた。
2 施設の維持管理状況	1 管理施設数 2 施設の利用状況 3 施設の改修状況 4 安全対策	[管理施設数] 115戸 [施設の利用状況] 貸出施設/展示施設/自営店舗/事務所利用/入居者共用施設/倉庫利用/未整備/利用不可 [施設の改修状況] シェアスタジオへの改修2件/スタジオ兼レジデンススペースへの改修1件/展示スペースの改修2件	比較的大きな施設を中心に改修を実施した。小規模店舗の老朽化は進んでおり、外構や建物基礎の修繕のほか、借り上げ当初に施した内装工事も改修が必要な状況である。利用状況については、コロナ禍により海外からのレジデンスがなかったほか、日本のアーティストも経済的困窮から退去するケースが見られた。	

※自己評価のチェックについて: 取組に対する姿勢や成果を自己分析し、10段階で記載すること。目標に対して、概ね良好を「5」とし、目標以上の成果が見込めたものを「6」～「10」、目標を下回ったものを「1」～「4」の範囲で、記載する。

II 創造性/政策達成評価		事業計画(要旨)	評価の着眼点	実施結果	事業評価	
評価軸					自己評価(成果・課題)	委員会評価
1 文化芸術の力で新しい価値観を生み出す	1 AIR事業 長期・短期レジデンス/共用施設の運用/成果展/中間面談/アーティストミーティング/作品展示・販売協力/広報協力	<目標>入居者数75組、施設整備数8件 ・プログラムの効果、アーティスト支援の内容 [取組の効果]募集スキーム、管理体制の構築/事業者枠の設定/リサーチャー向けプログラムの整備/未活用物件の整備/他AIRとの差別化/不動産会社との連携	[長期レジデンスアーティスト数] 42組46名 [施設整備数] 5軒	コロナ禍による計画変更のため、数値目標を達成できない事業が多かったが、黄金町バザールや国際交流などを止めることなく、継続することができた。今後はウイズコロナ時代に対応した方法を模索していく必要があると感じている。各事業については以下の通り。 [AIR] 募集・受入を1年間停止していたため、入居者数は若干減少した。アーティスト支援として、家賃減額、作品買取などの支援を行った。 [国際交流事業] 予定していた海外とのアーティスト交換が全てキャンセルとなった。一部の国とはリモートでプログラムを実施したが、リモート交流の手法については今後改善が必要と感じた。	4	新型コロナウイルス感染症の影響により、渡航制限がかかる中、これまでの連携の実績をもとに対応ができたことは評価される。コロナで中断した東南アジアネットワークの回復は進めてほしい。並木アートについては、黄金町が地域がアートプロジェクトに取り組む際のシンクタンクのような存在となっており長年の取組の成果として評価できる。
	2 国際交流事業 レジデンス交換プログラム/交換展示/東アジア文化都市交流/海外アート紹介	<目標> 予定団体5団体 [取組の効果] 新たなアトスペースとの交流	[交流団体/プロジェクト] LUXERLAKES A4 Art Museum(中国・成都)/Bamboo Curtain Studio(台湾・台北)/Space Ppong(韓国・光州)/Art Gwangju(韓国・光州)			
	3 黄金町バザール2020 公募・推薦選考による国内外のアーティストと黄金町の長期レジデンスアーティストによる作品展示	<目標> 来場者数50,000人(会期3か月の場合) ・アーティスト、作品、展覧会構成 [取組の効果] 横トリ・周辺施設・魅力づくり室事業との連携	[会期] 第1部: 2020年9月11日～10月11日(28日間) 第2部: 11月6日～29日(21日間) [来場者数] 30,840人(2部合計) [参加アーティスト数] 51組(2部合計) [関連イベント] オンラインセミナープログラム、インターンプログラム、Creative Railway			
	4 展覧会イベント企画	<目標> 企画展3企画、イベント12企画 ・日常的にアートに触れる機会の創出 [取組の効果] 長期アーティストの個展、ライブアート企画	[主催企画] 実施なし			
	5 made in Koganecho コミッションワーク/パブリックアート企画制作	<目標> プロモーション強化 [取組の効果] 市郊外部での企画/海外販路	[実施内容] ・黄金町アートブックバザール、gallery made in Koganechoでのグッズ・作品販売 ・ウィンドウギャラリープロジェクト ・東戸塚店舗での作品委託販売 ・並木アートプラス(AIR ACT実行委員会)			
	6 黄金町芸術学校 実技講座/専門講座/ワークショップ	<目標> 講座数10講座、受講者数1000人 ・講座数、受講者数の拡充	[講座開催回数] 通常講座: 38回 子ども向け講座: 6講座 [延べ参加人数] 通常講座: 186名 子ども向け講座: 58名 [講座例] 陶芸/編み物/ドローイング/美術講義			



2 地域、企業、大学、警察、行政、ボランティア等と連携した事業運営	1	のきさきアートフェア	<目標>来場者数5,000人、開催回数4回 ・地域団体、周辺施設との連携、PRの強化	実施なし	会議やイベントなどの多くが中止となり、主だった活動はなかった。 [協議会、地域活動支援] 協議会の事務局運営を行ったが、定例会議以外の活動はほとんどなかった。 [京浜急行との連携] 京急が開発を目指している高架下6区画のワークショップに参加した。今後さらなる連携に向けて関係を継続していきたい。 [ボランティア連携] これまでメインだったサポーターの自主活動に加え、事務局側でサポートプログラムを複数準備し、活動を行った。今後は日常的な活動の場を整備していきたい。	3	新型コロナウイルス感染症の影響により、いくつかのイベントは中止となったが、中止するべきところは中止し、オンラインに切り替えるべきところは切り替えたことにより、地域に不安を抱かせることなく事業を行ったことは評価できる。
	2	初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会事務局運営 定例会運営/まちのルールづくり/防犯パトロール	<目標>会議出席者50名/回 ・町内会との連携強化	[出席者数] 延べ202名(7回実施)			
	3	地域活動支援 大岡川桜まつり、大岡川水上劇場、運河パレード等の地域イベント支援/黄金町BASE支援/東小放課後キッズとの連携/Kollectiveとの連携	<目標>活動周知、参加者数向上 ・地域イベントの支援や連携、PRの強化 [取組の効果]Kollectivetとの連携	[実施内容] 活動参加なし			
	4	京浜急行との連携 エリアマネジメント検討	<目標>管理施設を中心としたマスタープラン作成	[実施内容] ・京急主催ワークショップへの参加			
	5	日ノ出スタジオ運用	<目標>プロモーション拠点としての運用 [取組の効果]カフェ事業者との連携	[実施内容] ・日ノ出スタジオ、黄金スタジオのリニューアルオープン			
	6	ボランティア等との連携 パズルサポーター	<目標>実働人数増加 [取組の効果]サポーター向けコンテンツの拡充	[パズルサポーター登録者数] 336名(2021年3月末時点) [実施内容] ・アーティスト、事務局、イベントのサポート、自主活動			
3 産業の振興や暮らしやすいまちづくりへの持続的な展開	1	施設貸出(1day～) レンタルスペース	<目標>PR強化、回転率増 [取組の効果]時間貸プラットフォームの活用、運用スキームの構築	[短期貸出件数] 18件	コロナ禍による地域の経済的打撃は大きく、状況を脱却する試みが必要である。 [施設貸出] 感染症対策のため、短期貸出の停止や貸出条件の確認を行い、貸出件数は大幅減少した。 [エリアマネジメント] 主だった活動はなかった。NPO発足時からこれまでの動きを振り返るとともに、マスタープランの更新や地域の合意形成の場を再度設けることが必要である。	3	京急による新たな開発の企画が始まるなど、黄金町の取り組みの成果によって民間による投資の動きが始まっていることは評価される。
	2	エリアマネジメント検討 関係者との継続的な協議/マスタープランの提案	<目標>関係者との協議継続 [取組の効果]中長期マスタープランの提案、エリア全体のサイン計画見直し、未整備高架下の活用検討	[実施内容] ・勉強会実施			
	3	初黄・日ノ出町環境浄化推進虚偽会事務局運営	<目標>会議出席者50名/回	[出席者数] 延べ202名(7回実施)			
	4	初黄日商店会事務局運営	<目標>まちゼミ実施、はっこひ市場開催 [取組の効果]地域ブランド商品の開発	[実施内容] ・はっこひ市場開催支援			
4 地域再生のモデル地区として全国に発信	1	地域内外へ向けた情報発信、メールマガジン、SNSでの情報発信	<目標>HPアクセス数、メールマガジン登録者数、SNSフォロワー数増加	[HPアクセス数] 69,894ユーザー [メールマガジン登録者数] 1,812件 [SNSフォロワー数] Facebook 4,997件/Twitter 4,523件/Instagram 1,425件	主だった活動がない中で、法人パンフレットの作成やホームページリニューアルなどの基本的な広報活動を見直す機会とした。 [広報・視察] SNSの登録者数は順調に増えているが、積極的な発信はできなかった。ホームページの更なる改善と海外への発信力強化が課題である。 [賛助会員・支援者] コロナ禍により困窮しているアーティストを支援するため、複数のキャンペーンを実施し、大口の寄付を得ることができた。	5	アーティスト支援という視点での環境整備、経済上のサポートに取り組んでいる。アーティストがいなければできない事業であり、基盤づくりとしてのアーティスト支援に取り組んだことは評価できる。
	2	視察受け入れ(有料)	<目標>視察受入数増加 ・販売資料の増加	[視察・ヒアリング対応実績] 3件			
	3	支援者獲得	<目標>支援者獲得 ・広報ツールの整理	[実施内容] ・アーティスト支援特設サイト開設 ・パズルフレンズ(小口の事業寄付)、年末寄付などのキャンペーンの実施			

**【総評】**・新型コロナウイルス感染症による社会情勢の変化により、様々な影響を受ける中で、リモートでの実施やオンライン販売など、様々な工夫・努力により事業を進めてきたことは評価したい。  
・一定の成果が上がる中で、次の10年間でどのようにやっていくのか、方向性を地域の施策として定めていく必要がある。  
その際に、これまで絡めてこなかったテーマ(ex.食文化など)を新たな基軸として打ち出すことも検討してほしい。

**【市の取り組むべき事項】** 市の施策や地元住民の希望に沿った方向性の投資を民間がするようになってきていることは、この事業の大きな成果であり、市として積極的に広報をするとともに、創造都市政策のもと、次の10年に向けた持続性を重視した計画に取り組むべきである。

**【総評】(令和元年度)**  
・これまでの着実な事業の実施により生み出した成果は高く評価できる。地元企業等との連携については、さらなる発展が期待できる。今後は、周辺地域との連携も意識し、パートナーを広げていけると良い。  
・アーティストインレジデンス事業は、日常の表現を支えるものと、パズルなどイベント系のものとバランスよく実施できており、黄金町の特色を出せている。これまで培った海外とのネットワークを途切れさせないよう、オンライン等への展開など、柔軟な対応が望まれる。  
・黄金町の取組は世界的にもモデルケースになり得るので、しっかりと取組をアーカイブして発信すること、次の取組に生かしていくことを期待する。

**【総評】(平成30年度)**  
・これまで10年以上、着実に取組を継続してきたことで、収益面以外の成果(文化の耕し)が出ている。  
・レジデンスアーティストの海外での展示機会が増えているほか、卒業時には周辺物件を紹介する等、積極的な一貫した支援ができています。実際に周辺に残るアーティストが増加傾向にあることは高く評価できる。  
・多岐に渡る業務をこなしているが、マンパワーに見合った事業計画か、成果が出ているか、収支のバランスがとれているか、事業ごとに適宜振り返り、改善・整理していけると良い。

**【総評】(平成29年度)**  
・Tinysの開設は、NPOのこれまでの取組実績によるところが大きい。これによりスタッフの意識や組織力が向上していることが伺える。今後は本実績についての効果的なPR等により、民間投資をさらに誘導していけると良い。  
・屋外、特に川沿いの作品展示やアートクルーズは、市民の関心を集める良い事業であり評価できる。  
・アーティストの出口(育成・ステップアップ)について戦略を持ってプロモーション活動をすることが望まれる。

**【総評】(平成28年度)**  
・地元や行政と連携しながら順調に事業を実施している。  
・アーティスト・クリエイターの適性・実力を見極め、プロへの道しるべを示す役割も望まれる。  
・運営者側に従業員の負担が大きいという課題認識があることから、事業の時間対効果、費用対効果を検証し、改善に向けた取組を検討していくことが必要。  
・まちが「ふつつ」になると、刺激を求めるアーティストにとって魅力が落ちるといった側面がある。これまでの成果をもとに、アーティストにとっての魅力は何か検証し、事業に生かすことが望ましい。

# 令和2年度 事業評価シート

拠点名: 急な坂スタジオ

運営期間: 平成29年度～令和3年度 (4年目/5年間)

## 【基本方針(使命・理念)】

- ①【横浜発】を、広く国内外に輩出する【創造・創作活動のためのプラットフォーム】
- ②次代を担う若いアーティストたちにとって【使いたいと思う稽古場】
- ③すべての利用者にとって【快適・安全で使いやすい・借りやすい稽古場運営】
- ④市民や将来の観客にとって、舞台芸術を身近に感じるきっかけとなる【体験型プログラム】

I 運営/経営評価		実施結果	事業評価					
評価軸			自己評価(成果・課題)	委員会評価				
1 施設における活動実績	1	施設の運営理念に沿った、貸館事業の実施と水準	・4、5、6月は政府・自治体による要請により、臨時休館とした。その後も、感染状況に応じて直前のキャンセルや利用途中でのキャンセルなど、通常の稼働状況に戻ることはなかった。 ・利用人数の制限や開館時間の変更等、感染症対策を徹底した管理運営を行った。 ・稼働率:30%、利用団体:84 ※実施事業詳細は別紙	この状況の中で、赤字を出すことなく、また感染者を出すことなく1年間運営できたこと自体が、大きな成果だと考える。今後の大きな課題は、事業の実施形態など、観客と作り手双方が安心できる事業の組み立て方の構築と、稽古場の使い方の幅を広げることだと考える。2021年度5月から和室をアトリエとして提供、7・8月に子供向けワークショップを予定。	一年間新型コロナウイルス感染症の対策に迫られる中、赤字を出さずに終えられたことは評価できる。  稽古場の稼働率が下がったことは(社会情勢上)やむを得ないとする。			
	2	貸館事業の利用団体数、スタジオの稼働率						
	3	自主事業、コーディネート事業等の実績と参加者数						
	4	地域・市民に開かれた場所とするためのクリエイティブ・チルドレンに資する活動の実施状況						
2 広報・情報発信	1	<広報・情報発信の基本戦略> <input type="checkbox"/> メディアを通じた活動成果の発信・積極的な情報提供 <input type="checkbox"/> 施設のHPの整備状況、バイリンガル表記等 <input type="checkbox"/> メールニュースの配信、その他新たな双方向メディアの活用 <input type="checkbox"/> ターゲットを絞った効果的な情報発信	・サイトを活用した事業の実施を積極的に行なった。※実施事業詳細は別紙  ・綾門優季の「余計なお世話です」は7月末までディレクターとの往復書簡として実施。綾門を始め、若い世代の漠然とした不安や、SNS上のギスギスした雰囲気を感じた。	劇場での公演制限に伴い、この1年間にネットを通しての企画が乱立した。その中で、公演配信では無い稽古場ならではの企画を実施することが出来たと感じている。	演劇界が苦しい中でも、スタッフの勤務形態に配慮するなど、急な坂スタジオとしてやれることを実践していることは、社会的には非常に頑張っていると評価できる。			
	2	<広報活動への反響・効果> <input type="checkbox"/> 新聞等の取材申込状況・掲載状況 <input type="checkbox"/> 国内外での専門誌等の掲載状況 <input type="checkbox"/> 広報ツールの効果・反響				・ディレクターの外部仕事:吉祥寺シアター主催の「からっぽの芸術祭」のオンライン・シンポジウムに参加。横浜ダンスコレクション コンペⅡ審査員、事前PVのインタビューア担当。「急な坂スタジオ」の名前の拡散に努めた。	単発の企画として終わらせるのではなく、アーカイブとしても機能するように、整えていきたい。	様々な取組が良い形でパブリックに打ち出されていく一方で、スタッフが退職したこと等により、館長を含めたスタッフの負担増が懸念される。人件費を上げる方向で見直したり、事業の数をセーブするなど、無理のない労働環境を整えていただきたい。
	3	<広報活動のアーカイブ> <input type="checkbox"/> 事業報告書(アニュアルレポート)の作成 <input type="checkbox"/> 出版物、映像資料、アーカイブなど <input type="checkbox"/> 人的ネットワーク構築の効果						
3 施設の維持管理状況	1	施設の管理状況	・共有スペース、およびスタジオ内に消毒グッズを常備。スタジオ利用最終日には退館後にスタッフによる床面消毒を実施 ・スタジオ毎に利用人数の制限を設け、開館時間も短縮(11時から20時) ・定期的な植栽の整備と、経年劣化に伴う設備の修繕を行っている。	開館時間の短縮により、光熱水費の削減につながっただけでなく、利用者にとっては電車のラッシュを避けることになり、安心して通える環境を作ることが出来ている。				
	2	施設の修繕・改善状況						
	3	安全対策・危機管理体制						
4 運営体制・労務管理	1	常勤スタッフ数と役割分担(職能)・勤務体制	スタッフ:館長(1名)、職員(2名)、契約(1名)、アルバイト(10名)  勤務体制: 館長:運営責任者、事業の企画制作、広報、総務・経理 職員1:食堂の管理運営、週休2日、11時から19時、出張業務あり 職員2:事業アシスタント、工事対応、シフト制(月16日、11時から17時) 契約:シフトスタッフ、事業アシスタント(月10日、11時から17時) アルバイト:シフトスタッフ(1050円～、交通費全額支給)、事業サポート(事業人件費)	運営体制、スタッフの報酬にほぼ変更はない。				
	2	スキルアップ・モチベーションアップのための取組状況			感染症拡大の中で、それぞれのスタッフが挑戦したいことや、現状の自分の興味関心等を考えた結果、  職員1:2021年2月末にて退職(司厨士に転職) 職員2:2021年度より雇用形態を契約とほぼ同じ条件へ変更			
5 年間総事業費について(収入・支出)	1	年間総支出に占める管理運営費、人件費の割合(常勤スタッフの報酬と待遇等)  【参考:最低賃金・統計データ】 ・神奈川県最低賃金:1,011円/1時間※令和元年10月1日改正 ・民間給与実態調査(29年分調査) 業種別及び年齢階層別の給与額(1年を通じて勤務) 学術研究・専門・技術サービス業、教育、学習支援業 25～29歳:3,831千円、30～34歳:4,270千円、35～39歳:5,021千円、40～44歳:5,114千円、45～49歳:5,583千円  【参考:横浜市の類似施設(29年度決算ベース)】 ・長浜ホール(9人):21,366千円 ・久良岐能舞台(7人):16,375千円	取組: 4、5、6月はまだまだ状況がわからなかったため、市内在住スタッフのみ出勤 市外のスタッフにも給与の支給を行なった また定期的にオンラインでのスタッフミーティングを実施、状況をシェアしていた  人件費: 館長・職員・契約:11,203,840円 アルバイト:4,593,780円  利用料収入が70%近く減少したために、割合はかなり低くなっている。	これに伴い館長職の負担がより大きくなっている。しかしながら利用料収入の安定が見えない中での新規雇用も難しく、スタッフ体制の強化が大きな課題である。  アルバイトスタッフが俳優、制作、テクニカルスタッフで構成されており、公演のキャンセルや撮影の延期など、不安定な状況の中、給与支給や定期的なミーティングにより彼らのストレスを軽減出来たことは大きな成果だと感じている。事業実施の際も積極的にアルバイトスタッフに関わってもらうことで、スムーズに進行することが出来た。				
	2	施設の管理運営に係る費用(管理運営費、人件費で事業に係る経費を除いたもの。)に対する年間利用料金収入の割合						
	3	収入の内訳等の状況(市補助金、助成金、協賛金、事業収入等)						

※自己評価のチェックについて:取組に対する姿勢や成果を自己分析し、10段階で記載すること。目標に対して、概ね良好を「5」とし、目標以上の成果が見込めたものを「6」～「10」、目標を下回ったものを「1」～「4」の範囲で、記載する。

II 創造性／政策達成評価		事業計画(要旨)		実施結果	事業評価	
評価軸	評価の着眼点				自己評価(成果・課題) 【チェック】	委員会評価
1 すべての利用者にとって【快適・安全で使いやすい・借りやすい稽古場運営】	1 すべての利用者にとって快適・安全で使いやすい・借りやすい稽古場運営を行っているか	稽古場の見回りや整備・清掃を適正に行っているか	稽古場利用者の視点に立った運営をしているか	・業者に委託している日常清掃に加え、スタッフによるこまめな消毒作業を行なっている ・休館期間にフォーマットを見直し、より使いやすい・申請しやすいものに変更した。また利用期間中の台帳類も全て更新し、利用者・スタッフ双方にとってわかりやすいものにした。 ・利用終了後2週間を目安に、関係者に体調不良者はいないか、ヒアリングを実施している。	申請前や利用中のやり取りをこれまで以上に丁寧に行うことで、利用者と信頼関係を築けていると感じている。 感染状況に応じて劇場の方針も刻々と変わるために、稽古場は可能な限り柔軟な対応を心がけている。	非常に困難な時期だったが無事に施設の運営を行えている。
2 【横浜発】を、広く国内外に輩出するためのプラットフォーム】	1 「横浜発」を意識した、発信力のある創造的活動を展開しているか	施設の運営理念に沿った、多様な自主事業の実施状況	オリジナルなものの創作、「横浜発」にこだわった創作	※実施事業詳細は別紙 ①綾門優季「余計なお世話です」番外編(ウェブサイトでの連載企画) 劇評連載記企画をディレクターとの往復書簡に変更 ②「みらいみなど」 みなとみらい駅にて実施した、非接触な体験型パフォーマンス	対面での事業実施が難しい状況が続き、これまで以上に劇場では無い場所がどうやって事業を実施すべきかを考える1年間だった。 サイトを用いた読み物、動画公開、生配信など、これまでの蓄積や俳優・スタッフ陣との連携のもと、事業が実施できたことはとても良かったと感じている。	「ききみみ」等、これまでの通常の演劇や、稽古場としての活動以上に、付加価値をつけることができた。 新型コロナウイルス感染症対策のために取り組んだオンライン化、非接触型の取り組みは、今後の事業展開において、守りにとどまらず、新しい展開として「攻め」の要素になりうるものであり、評価できる。
3 次代を担う若いアーティストたちにとって、【使いたいと思う稽古場】	1 新たな可能性を持つ人材を発掘、育成しているか	若手のプロを育成するスクール・セミナー等の開催	レジデントの選定における若手育成の視点の重視	③「ききみみ」 みなとみらい線の職員へのインタビューを元に、小さな作品を7つ創作 俳優による収録を経て、音声コンテンツとして展開 好評につき、急な坂サイト内に移行して現在も公開中 ※②、③は「ヨコハマトリエンナーレ2020」の連携プログラムとして、横浜市、横浜高速鉄道(株)、創造界隈拠点が主催する「Creative Railway」の一環として実施	「みらいみなど」では非接触でありながらも、観客自身は能動的にパフォーマンスに参加することが出来、多くの配信事業とは逆の発想でクリエイションをする機会になった。新しいパフォーマンスの可能性を探ると同時に、俳優にとっては安心してクリエイションに参加できる環境を作ることを目指した。劇場での公演には訪れないであろう観客の姿が目立ったのも印象的だった。小さなお子さん連れや、親子三世代など、「旅行」というキーワードに惹かれて参加した人が多かった。	
4 市民や将来の観客にとって、舞台芸術を身近に感じるきっかけとなる【体験型プログラム】	1 子供たちの創造性を育む創造的プログラムを展開しているか	多様なアーティストを講師に迎えたプログラムの実施	参加する子供たちが主体的に活動できる企画・運営	④「インサイドアウト」 横浜市映像配信支援プログラム テクニカルスタッフによるオーラルヒストリー ウェブサイトにて、動画公開中。今後も継続予定。 ⑤無題の稽古場「俳優達の夜、夜明け、夜明け前」 公演を前提としない、俳優陣のみによる稽古会をホールから生配信	「ききみみ」が横浜高速鉄道に好評だったのは、演劇がそもそも持っている、「普段見慣れた景色や物事を視点を変えることで魅力を再発見することができる」力が発揮された成果だと感じている。	学校プログラムは、稽古場で創ったクリエイションと地域とをつなぐというような形が、とてもいい流れでできている。従来からの課題であった子供向けの取組を本格的にスタートさせるという姿勢もとても評価できる。
	2 地域・市民に開かれた場所とするための取組を行っているか	市内の既存の文化施設、他の創造界隈拠点との連携等	市内の既存の文化施設、他の創造界隈拠点との連携等	⑥学校プログラム 川和小学校へアーティストを派遣(岩澤哲野)	常に課題になっている子供向けワークショップだが、2020年度中の実施は、感染症対策への観点から難しかった。しかしながら、2021年度に実施するための枠組み作りを進めることが出来た。アトリエ企画と並行して、DDDの関連企画として9月に影絵を用いたダンスワークショップを開催する。	

**【総評】**  
新型コロナウイルス感染症対策を迫られる中での運営であったが、「ききみみ」などの新たな取組により稽古場としての活動以上の付加価値をつけている。アーティストの面でもきちんと内容を創り出している。首都圏を中心とした演劇界の中をつながっていると感じる。

**【市の取り組むべき事項】**  
稽古場利用に際してのPCR検査経費の助成など、稽古場としてより使いやすい施設とするために必要な支援に関して、運営団体とよく協議の上検討すること。

**【総評】(令和元年度)**  
・限られた予算と人員の中で多くの事業を丁寧に実施されている。若手の支援をはじめ、稽古場ならではの企画や、コロナで人を集められない中で状況に応じた企画ができている点が評価できる。  
・子供向けプログラムについて、子供に関心があるアーティストと協力しながら企画を組み立てるなど、柔軟な発想で考えられるといい。急な坂らしい企画を期待する。

**【総評】(平成30年度)**  
・新規事業含め、ニーズを丁寧にすくいあげた企画運営・サポートができており、稽古場としては十分な運営ができている。今後は、運営体制を十分に確保し、体験型プログラム等、市民の創造性を育むプログラムを増やせると良い。  
・相談室plusや新規サポートアーティストの応募数も増えており、着実に事業を運営している。  
・運営の継続性を意識し、現在の人件費が適正か、業務内容や業界水準を考慮し見直すべき。

**【総評】(平成29年度)**  
・稼働率も安定しており、稽古場として着実な運営ができているとともに、スタッフにアーティストなどを起用することにより、利用者目線の運営を実現している。また、アーティストの不定期な働き方や産休・育休等、ワークライフバランスにも配慮していることが評価できる。  
・日本舞踊家による小学生向けワークショップを実施するなど、これまで以上にクリエイティブ・チルドレンに資する事業に精力的に取り組んでいる点は評価できる。

# 令和2年度 事業評価シート

拠点名:文化芸術創造発信拠点 (BankART1929)

運営期間:平成30年度～令和3年度 (3年目/4年間)

## 【基本方針(使命・理念)】

- (1) 地域及び周辺施設と連携しながら、新しい横浜文化を創造し、発信していくこと
- (2) 他都市及び国際的なネットワークの構築
- (3) さらなるBankARTの経済的な基盤の確立
- (4) 創造界隈クリエイターたちの誘致及びその経済的な構造の土俵づくり

I 運営/経営評価		実施結果	事業評価	
評価軸			自己評価(成果・課題)	委員会評価
1 経済的な基盤の確立	1 全体事業収支	別紙「令和2年度収支報告書」参照		・コロナ禍や施設再編が続いた中でも、助成金の獲得に努力し、自己収入比率を高めて運営したことは評価に値する。
2 経済的な基盤の確立	1 収入のうち、横浜市の補助金が占める比率	横浜市約65%。自己収入35%	コロナでカフェショップ収入は、激減したが、国の助成金などの大きい額の所得を得ることができた。	・予算が少なくても、さまざまな手法や工夫で事業規模を大きくするノウハウを運営面でも生かしてほしい。
	2 横浜市の補助金以外の収入(助成金、協賛金、貸館収入等)の内訳と比率	自己収入(市の補助金以外の収入)の内訳 <ul style="list-style-type: none"> <li>・助成金 1,400万円 15%</li> <li>・委託金 409万円 4%</li> <li>・主催、コーディネート カフェ、ショップ等 1900万円 16%</li> </ul> *協賛金はTemporaryへ		
3 施設の整備・維持管理状況	1 施設の整備状況	【施設の整備、修繕・改善の状況】 ■BankART Station ・地下通路部分に誘導灯を設置	帝蚕倉庫の再開発主の三井不動産レジデンシャルから、復元した帝蚕倉庫の1F(空き室)の可能性について相談されたことがきっかけとなり、BankART1929が、620平米の空間を借り受けることになった。この賃料132万円/月を捻出するには、経済的な観点から、所有していた「BankART SILK」と「BankART Home」を手放すしかないと判断した。秋には、既存のスペースの退居作業と新しく借受けた空間の内装工事を終えることができ、「BankART KAIKO」が10月にスタート。 一方、ようやく基本インフラを整備することができたR16スタジオは、高架構造体の耐震不足のため、都市整備局により、突如撤去命令がでて、3月末にその活動は停止した。これにより、BankARTの場所は馬車道駅(KAIKO)と新高島駅(Station)の二つのスペースに整理された。  馬車道駅と新高島駅にふたつの安定した空間が確保できたことは大きい。逆に、R16スタジオなど将来可能性のあるスペースも手放すことになったのは極めて残念。  横浜市は、2021年度までの契約を都合4年間という継続使用許可を決定してくれた。	・2拠点体制を意識した施設再編は、今後に向けての布石となった。  ・リスクマネジメントとして、今回のコロナ対応の経験をマニュアル化しておくことよい。  ・人材育成の仕組みを引き続き模索し、安定した運営体制の確保に努めていってほしい。
	2 施設の管理状況	□BankART SILK(R2.8.31で活用終了) ・退去作業		
	3 施設の修繕・改善状況	□BankART Home(R2.11.14で活用終了) ・退去作業		
	4 安全対策	□R16スタジオ(R3.3.31で活用終了※) ・水道、電気、トイレを整備 ・退去作業 ※暫定措置として6月末まで一部を倉庫として使用		
	5 その他	■BankART KAIKO(R2.10.30に活用開始) ・内装工事		
		【施設の管理状況】 施設管理についてはBankARTの正規スタッフ及びアルバイトが以下の作業を行ってる。 ・施設の解錠施錠 ・施設整理整頓 ・床・トイレ・台所の清掃 ・空調・照明・映像のスイッチオンオフ ・照明器具の交換 ・郵便物の管理  責任のもちうるアルバイトまたは使用者(スタジオ入居者)に規約内での管理を委ねる事もある。その際は、責任者の確定と作業内容の報告を徹底するように努めている。		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ BankART Station (隣接する道路区域を含む)</li> <li>・ BankART SILK</li> <li>・ BankART Home</li> <li>・ R16スタジオ</li> <li>・ その他</li> </ul>			

※自己評価のチェックについて:取組に対する姿勢や成果を自己分析し、10段階で記載すること。目標に対して、概ね良好を「5」とし、目標以上の成果が見込めたものを「6」～「10」、目標を下回ったものを「1」～「4」の範囲で、記載する。

I 運営／経営評価		実施結果	事業評価				
評価軸			自己評価(成果・課題)	委員会評価			
1 地域及び周辺施設と連携しながら、新しい横浜文化を創造し、発信していくこと	1	アーティスト・クリエイターの育成支援や横浜への定住・定着を促すことを主な目的とした短期滞在型アーティスト・イン・レジデンス事業	<input type="checkbox"/> 主催事業・スタジオ事業 <input type="checkbox"/> AIRの開催(オープンスタジオの開催) <input type="checkbox"/> 台北との交流AIRの実施 <input type="checkbox"/> 出版事業  ※コロナ等の影響で実施できなかったもの 台北との交流AIRの実施／出版事業	BankART館内でのレジデンス事業(短期)を発展展開し、街中での恒常的なスタジオ設置へと導く作業を年間を通しておこなっている。既にBankART関係から400人程度が、横浜の街中に長期滞在している。(全体では1,000人程度) AIR事業における週末のアーティストトークやオープンスタジオ。また、企業の担当者による、スクールへの講師依頼など、お互いが双方向から往来できるような仕掛けを行っている。もちろん、展覧会やイベント、スクール等のすべての事業を通して、そういったことが確立できるように事業を進めている。	・R16スタジオの退去により長期AIRの場がなくなってしまったが、今後の大きいビジョンの中で再構築の考えを持っており、期待したい。 ・駅構内・近接の施設であるメリットを生かし、鉄道事業者との連携で実施した「BankART Life VI」や「Creative Railway」など、街への視点、展開を意識して活動しており評価する。		
	2	横浜で活動するアーティスト・クリエイターや企業・事業者・市民等と連携した街の活性化に寄与する事業	<input type="checkbox"/> 主催事業 <input type="checkbox"/> 「BankART Life VI」(川俣正氏) <input type="checkbox"/> 野老朝雄氏等の企画展の開催 <input type="checkbox"/> UNDER35の開催 <input type="checkbox"/> スクール事業 <input type="checkbox"/> みなとみらい地区の企業との連携を含む <input type="checkbox"/> カフェ・バブ・ショップ事業 <input type="checkbox"/> 出版事業	<input type="checkbox"/> 主催事業 <input type="checkbox"/> 「BankART Life VI」(川俣正氏) <input type="checkbox"/> 「ART BOOK & ART GOODS」 <input type="checkbox"/> 「えきなか動物園」、「展覧会の絵」(Creative Railway) <input type="checkbox"/> 北仲ブリック&ホワイトドライエリア展示「仮想の海」(高橋啓祐) <input type="checkbox"/> カフェ・バブ・ショップ事業 ※コロナ等の影響で実施できなかったもの 野老朝雄氏等の企画展／Under35／スクール事業／出版事業	地域社会との関係は、報告書にあるように、「Creative Railway」の動物園や絵画展、川俣正氏の「都市への挿入」のような都市との関係を扱ったもの、また横浜の街づくりに深く関係する建築展「M meets M(村野藤吾展+楨文彦展)」など、地域への波及効果について明記はしていないが、横浜の街、市民との関係を考慮した企画であることをここに記しておく。例えば「M meets M」は、様々な組織、大学、協賛企業、横浜市、国等が総力をあげての展覧会に関わってくれ、経済的にも文化庁、入場料、協賛などにより、ざっと6,000万という大きな予算を実現することができている。日本を代表する二人の建築家にフォーカスしながら、横浜の都市形成史を専門家、市民に広く、深くプレゼンテーション、共有することができたのではないかと考えている。	・新高島エリアは多くの企業やR&Dなどが集積し、新たな可能性が広がっている。キング軸形成のサポートや、増加するアミューズメント・ミュージアム機能のつなぎ役を担うことを期待したい。 ・ソーシャルビジネスをやっている人たちともうまく連携できるとよい。 ・オンラインの活用にも力を入れ、リアルとオンラインの併用により、市民への情報発信や新たなファン層の獲得につなげてほしい。	
	3	本事業の成果発信及び最先端の文化芸術に市民が触れる機会の提供等を目的とした様々なプログラム	<input type="checkbox"/> 主催事業 <input type="checkbox"/> 「BankART Life VI」(川俣正氏) <input type="checkbox"/> 野老朝雄氏等の企画展の開催 <input type="checkbox"/> UNDER35の開催 <input type="checkbox"/> 統・朝鮮通信使 <input type="checkbox"/> コーディネート事業 <input type="checkbox"/> TPAM、卒展など <input type="checkbox"/> スクール事業 <input type="checkbox"/> みなとみらい地区の企業との連携を含む	<input type="checkbox"/> 主催事業 <input type="checkbox"/> 「修復のモニュメント」(渡辺篤氏) <input type="checkbox"/> 「BankART Life VI」(川俣正氏)、「川俣正プロジェクトブランドローイング展」 <input type="checkbox"/> 「M meets M 村野藤吾展 楨文彦展」 <input type="checkbox"/> 「ART BOOK & ART GOODS」(作品販売会) 他 <input type="checkbox"/> コーディネート事業 <input type="checkbox"/> オンライン「制作における協働について考える」(高山玲子) <input type="checkbox"/> 「BLANK」(HOLIDAYS新作公演) <input type="checkbox"/> 卒展(多摩美メディア2019、多摩美メディア2020、多摩美プロダクト、早稲田繊維サークル) ※コロナ等の影響で実施できなかったもの 野老朝雄氏等の企画展／統・朝鮮通信使／TPAM(一部)／スクール事業	コロナという非常事態の状況の中、インパクトのあるインスタレーション作品を手がけてくれた川俣氏の展覧会や村野藤吾氏+楨文彦氏という重要な作家の展覧会が開催できたことは大きい。結果もプレスを中心に大きく成果を出すことができた。 スクール事業は、全てコロナ禍のため中止。 ショップ事業は、通常よりも規模を縮小して運営。	9	
	4	次年度以降の事業を見据えた取組、広報・情報発信	<input type="checkbox"/> 企画と連動した広報活動・情報発信 <input type="checkbox"/> 次年度以降を見据えた広報・情報発信 <input type="checkbox"/> 文化芸術創造都市・横浜のPRにつながる広報活動 <input type="checkbox"/> ダイレクトメール送付、メールニュース配信 <input type="checkbox"/> WEBサイト運営、ブログ運営、SNSでの情報配信 <input type="checkbox"/> プレスリリース配信およびプレス対応 <input type="checkbox"/> カフェ・バブ・ショップ事業 <input type="checkbox"/> 出版事業 <input type="checkbox"/> 次年度以降を見据えた周辺企業・地元との関係構築 <input type="checkbox"/> 次年度以降を見据えた国内外での事業PR、講演、レクチャー、国内外からの視察受け入れ	<input type="checkbox"/> 企画と連動した広報活動・情報発信 <input type="checkbox"/> 次年度以降を見据えた広報・情報発信 <input type="checkbox"/> 文化芸術創造都市・横浜のPRにつながる広報活動 <input type="checkbox"/> ダイレクトメール送付(1万通×3~4回)、メールニュース配信(1.8万×50回=90万通) <input type="checkbox"/> WEBサイト運営、ブログ運営、SNSでの情報配信 <input type="checkbox"/> プレスリリース配信およびプレス対応 <input type="checkbox"/> カフェ・バブ・ショップ事業 <input type="checkbox"/> 出版事業 <input type="checkbox"/> 次年度以降を見据えた周辺企業・地元との関係構築 <input type="checkbox"/> 次年度以降を見据えた国内外での事業PR、講演、レクチャー、国内外からの視察受け入れ(14件、102名)	韓国に関しては、今年度はまったく交流作業ができなかった。その他の海外との相互派遣もなかった。(文大統領、コロナ関連)台北に関しても同様で、交換AIR事業はとりやめ、日本における台北横浜の交流事業のみを行った。 新年度もこのような状況が続く中、どういった構築ができるかが具体的に検討していく。	4	
2 他都市及び国際的なネットワークの構築	1	<input type="checkbox"/> 主催事業 <input type="checkbox"/> 台北市との芸術家相互派遣プログラム <input type="checkbox"/> 海外との相互派遣など <input type="checkbox"/> 国内外の組織とのネットワーク構築	<input type="checkbox"/> 統・朝鮮通信使 <input type="checkbox"/> 台北市との交流事業AIR <input type="checkbox"/> 国内外での事業PR、講演、レクチャー <input type="checkbox"/> 国内外からの視察受け入れ <input type="checkbox"/> 他組織との事業協力協定書の締結 <input type="checkbox"/> 他組織との事業協力協定書の締結 ※コロナ等の影響で実施できなかったもの 統・朝鮮通信使／台北市との交流事業AIR	<input type="checkbox"/> 横浜台北交流事業「都市の連鎖」 <input type="checkbox"/> 国内外での事業PR、講演、レクチャー(首都大学東京 集中講義 他) <input type="checkbox"/> 国内外からの視察受け入れ(14件、102名) <input type="checkbox"/> 他組織との事業協力協定書の締結(文化庁委託事業) ※コロナ等の影響で実施できなかったもの 統・朝鮮通信使／台北市との交流事業AIR	海外作家による展覧会の中止が相次ぐ中、海外からのリモートで作品制作を行い展覧会を実現したことは、国際的なプレゼンスの向上につながった。 ・台北交流事業では、コロナの影響で交換AIRができなかったが、過去のAIR参加アーティストによる振り返りを行うなど、これまでの実績の整理につなげられた。	4	
3 創造界隈クリエイターたちの誘致及びその経済的な構造の土俵づくり	1	<input type="checkbox"/> 主催事業・スタジオ事業 <input type="checkbox"/> 出版事業 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> AIRの開催(オープンスタジオの開催) <input type="checkbox"/> 周辺へのアーティスト誘致(シルクセンターなど) <input type="checkbox"/> コーディネーターの養成 <input type="checkbox"/> UNDER35	<input type="checkbox"/> AIRの開催(オープンスタジオの開催) <input type="checkbox"/> 周辺へのアーティスト誘致 <input type="checkbox"/> コーディネーターの養成 ※コロナ等の影響で実施できなかったもの Under35	<input type="checkbox"/> 出版作業はBankART SILKで開催した渡辺篤氏の展覧会カタログのみ。 <input type="checkbox"/> 引越、コロナ禍の渦中の中、企画内容の変更を繰り返し、なんとか実現にもっていくことがやっとだった。(今後、重要な企画展のものは、近い将来必ず出版していきたいと考えている) <input type="checkbox"/> 次年度はオンラインアーカイブも着手していく。	<input type="checkbox"/> R16スタジオの退去により長期AIRの場がなくなってしまったが、空きビルへの移転の支援等により、横浜への定着につなげている。 <input type="checkbox"/> 「ART BOOK & ART GOODS」の開催など、集積したアーティスト・クリエイターの販路開拓につながる取組にも挑戦しており評価できる。	3

**【総評】**  
 ・コロナ禍や施設再編など大きな変化があった中、一部実施できなかった事業もあるが、助成金の積極的な獲得や鉄道事業者との連携による駅舎の活用、海外からのリモートによる作品制作など、多様な取組やチャレンジにより多くの事業を実現できたことは評価できる。  
 ・みなとみらいの企業等との交流の足掛かりはできているので、キング軸形成のサポートや増加するアミューズメント・ミュージアム機能のつなぎ役を担うことも期待したい。  
 ・コロナ禍でデジタルシフトが促進されたことに鑑み、オンラインの活用にも力を入れ、リアルとオンラインの併用により、市民への情報発信や新たなファン層の獲得につなげていくことを期待する。

**【市の取り組むべき事項】**  
 ・成長や変化が著しい新高島と北仲地区のポテンシャルの生かし方を、運営団体と共に考え、必要に応じ施策の見直しを行っていく必要がある。  
 ・横浜市のアート施策に対する運営団体の問題意識について、寄り添いながら解決や実現につなげていってほしい。

**【総評】(令和元年度)**  
 ・分散型施設の本格的な運営初年度かつ、コロナも重なり非常に厳しい条件の中、施設の再編成に着手するなど、今後の安定した運営に向けた取組に尽力されている点が評価できる。  
 ・stationにおいて、鉄道会社、駅舎との協調や道路使用上での工夫がみられるほか、みなとみらいに立地する企業や学校との連携が着実にできており、様々な可能性を広げている点が高く評価できる。  
 ・客観的に推移・経年変化を把握できるよう、事業の内容や経費などをデータで蓄積し、今後の運営に生かすことを期待する。  
 ・リスクマネジメントの観点から、不慮の事態に備えた体制づくり、人材育成を進めていくことを期待する。

**【総評】(平成30年度)**  
 ・新しい拠点となって1年目であったが、移行期をうまく乗り越えた。新旧の街に分散して拠点を持つことになったことに対し、ソフト的な意味でのネットワークから各施設をどのように活用していくかまで、新しい可能性を含めて見えてきたことは評価できる。  
 ・Stationは横浜高速鉄道や道路局との調整の結果、よいスペースを作り上げることができた。事業についても、集客数が大きく落ちることはなかった。各拠点の特徴を生かした今後の展開に期待が持てる。  
 ・工事費・整備費等で予想外の支出があったものの、収支を合わせられたことは評価できる。

# 令和2年度 事業評価シート

拠点名: 旧第一銀行横浜支店

運営期間: 令和2年度

## 【基本方針（使命・理念）】

- (1) 多くの市民が創造都市横浜に触れ、創造都市横浜への理解・共感を高めること。
- (2) 地域との協働を推進し、まちの活性化に貢献すること。
- (3) 未来に向けた新たなアイデアを発信し、市民のクリエイティビティを高めること。
- (4) 自主的な財源確保及び対象施設の運営に関する財政面での自立化のため、市の認める範囲で行う収益的事業を実施すること。
- (5) 対象施設の施設及び設備の維持保全及び管理に関すること。

I 運営／経営評価		実施結果	事業評価	
評価軸			自己評価(成果・課題)	委員会評価
1 施設の活動実績	1 <input type="checkbox"/> 施設の理念、基本協定に沿った施設活動実績 ・ 事業、貸館などの全体活用状況(概要、件数等)	詳細は事業リストより、46の主催、コーディネート事業を開催した。	コロナで大きく予定は変更したものの、川俣展、M meets Mなどの主催。中村恩恵、TPAM、ニブロールなどのコーディネートも行うことができた。	・コロナ禍の中で1年間の暫定利用ではあったが、多様な活動により、次へ繋がる成果を出している。また、事業費のうち約1/3を事業収入で賄っており、コロナ禍を受けた補助金も積極的に確保することで効果的な運営ができた。
2 利用団体 入館者数	1 <input type="checkbox"/> 利用団体 ・分野別など 2 <input type="checkbox"/> 入館者数 ・月次の推移など	来館平均1,930名。9-12月の川俣展、M meets M開催時、3000~5000名/月とコロナ禍にも関わらず、来場が多かった。1-3月は緊急事態宣言ということもあり、上記の主催展に比べ、来場が少なかった。	1年間コロナ感染なども起こらず運営できた。	・収支が不明確な箇所があるので、特に大きな企画(川俣正展、MmeetsM)については、Temporaryとして執行した金額を明確にすること。
3 広報活動	1 <input type="checkbox"/> 独自媒体を通じた活動の発信と効果 ・ Web、メールマガジンなど ・ チラシ・ポスターなど	詳細は定量データより。チラシ郵送、ホームページ、SNS告知だけでなく、BankARTがこれまで受付で情報を蓄積、管理している住所録[約78,000件]。メールニュース[約2万件]を活用し、しっかり集客を行なった。	ホームページ、SNSなど全体告知も大事だが、引き続き、来ていただいたお客のデータの管理、更新を丁寧に行い、情報を発信していく。	・コーディネート事業は、BankART1929のネットワークを活かした実施となった。
4 運営体制	1 <input type="checkbox"/> 効率的な人員配置と各事業実施主催者との役割分担 2 <input type="checkbox"/> 安全管理、防災の体制 3 <input type="checkbox"/> 施設及び設備、備品の維持管理	4フロアの施設だが、大きな主催展以外は、受付を1階部分に置き、一人体制で対応。2階の事務所利用者などの連絡網を用意し、連携をとった。	結果、人員にも大きな負担はかけず、盗難、紛失などの事故もなく終えることができた。	
5 活動の蓄積と展開	1 <input type="checkbox"/> 活動についての記録状況 2 <input type="checkbox"/> 蓄積を基にした新しい取り組み 3 <input type="checkbox"/> アーティスト・クリエイター、企業・地域とのネットワーク構築状況	活動は、ニュースなどの印刷物、ブログなどでまとめた。クリエイターは、TPAM[現在YPAM]とUD-LABが事務所利用。2021年度はKAI KOに拠点を移し、引き続き横浜で活動することになった。	特になし	

※自己評価のチェックについて:取組に対する姿勢や成果を自己分析し、10段階で記載すること。目標に対して、概ね良好を「5」とし、目標以上の成果が見込めたものを「6」～「10」、目標を下回ったものを「1」～「4」の範囲で、記載する。

II 創造性／政策達成評価		事業計画(要旨)	実施結果	事業評価	
評価軸・評価の着眼点				自己評価(成果・課題)	委員会評価
1	多くの市民が創造都市横浜に触れ、創造都市横浜への理解・共感を高めることに寄与しているか？		<p>4～5月。館内の受付周り、ブックショップ、備品、その他、スタートにむけての整備。予定していた「緑陰図書館2020」松本秋則+高橋啓祐は、コロナのため6月にスタート。空間全体を用いた豊かなインスタレーションで評価が高かった。同時期6.1-8.5に、3Fで11組のBankART AIR 2020を開催。</p> <p>9月～10月。Temporary内外、馬車道駅で、BankART LifeVI - 「都市への挿入」川俣 正展開催。横浜トリエンナーレと連動。Creative Railwayとも連動。コロナ禍の中、リモートのみで成し遂げた都市的なダイナミックなインスタレーション作品。</p> <p>11月～12月末。M meets M 村野藤吾展/榎 文彦展を開催。with BankART KAI KO. 100周年、150周年で横浜市庁舎を設計した建築家の本格的な展覧会。</p>	<p>「緑陰図書館2020」松本秋則+高橋啓祐は、コロナのため6月にスタート。空間全体を用いた豊かなインスタレーションで評価が高かった。</p> <p>川俣正展</p> <p>BankART Temporaryという都市の中心部の建物を利用して、コロナ禍の中、萎縮しつつあった状況の中、きわめて都市的な元気のいいプロジェクトが実現できたと思う。</p> <p>村野藤吾/榎文彦展</p> <p>日本を代表する建築家でもあり、また横浜の街を形成した建築家でもある二人の偉大な建築家の本格的な展覧会を同時に開催したことの意義は大きい。またその会場として、横浜が大切に育んできた歴史的建造物二棟を活用した展覧会であったことも今後の横浜のまちづくりに対して、大きなヒントを提供したといえる。</p>	<p>9</p> <p>・創造都市の思想を反映した企画構成となっており、高く評価できる。 ・BankART1929の実績、蓄積を活用し、成果を挙げている。 ・川俣正展では、駅との連携を実現した点が評価できる。 ・都市や建築に係る展示はこの場所のプレゼンスに沿った企画であり、当該施設と横浜都心部のこれからの可能性を遡及できた。 ・ダンス関係の集積・拠点性の強化、美大卒展の再生は当該エリアの拠点性強化に資した。 ・大学の学生から広がるネットワークもあるので、大学とのつながりは引き続き大切にしてもらいたい。</p>
2	地域との協働を推進し、まちの活性化に貢献しているか？	<p>・デザインやパフォーマンス、建築など様々な分野のプロフェッショナルによる企画を招致し、1～2か月ごとに発信力のあるプログラムを発信。</p>	<p>1月～2月 TPAM - 国際舞台芸術ミーティング in 横浜</p> <p>2月には中村恩恵、3月にはN broil のPerformance + Exhibition</p> <p>2月後半横浜国立大学オンラインシンポジウム。</p> <p>3月には、多摩美術大学プロダクトデザイン専攻卒業展、和光大学卒業展</p>	<p>ダンス関係の事業</p> <p>短期間の建物活用(1年)にも関わらず、日本を代表するダンスチーム、</p> <p>ニブロールと中村恩恵がBankART Temporaryを活用したことの意味は大きい。</p> <p>卒業展</p> <p>同様に、和光、多摩美他、優秀大学の卒業展が開催されたことも、このスペースのポテンシャル(人的関係、空間)は大きい。</p>	
3	未来に向けた新たなアイデアを発信し、市民のクリエイティビティを高めているか？	<p>・トリエンナーレや他の拠点との連携事業を実施。</p> <p>・「創造都市の今後」をテーマとした交流の場づくりや、講座型プログラムを実施。</p>			

**【総評】**

- ・準備期間が短い中で、1年間、施設をうまく活用し、将来に向けた可能性にトライすることができた。その一方で、空間の使いにくさ、という課題も明らかになった。
- ・展示をきっかけにこの施設を多くの方々に知っていただき、地域や隣接している横浜市庁舎の職員の来館のきっかけにもなるといい。
- ・BankART1929のネットワーク、ノウハウが生きた活用となった。また、文化創造発信拠点(StationやKAIKO)との連携も高く評価できる。

**【市の取り組むべき事項】**

- ・次期運営団体の選考にあたっては、市庁舎の移転や北仲地区の開発を経て地域の状況が変わり、場としてのステージが上がった、という点にしっかりと着目すること。
- ・展覧会やシンポジウム、ワークショップ等の活用に対する評価や、撮影利用の需要等、今回の事業報告から得た材料を、次期運営団体の選考に活かすこと。

# 令和2年度 事業評価シート

拠点名:象の鼻テラス

運営期間:令和2年度～令和6年度(1年目/5年間)

## 【基本方針(使命・理念)】

- ①創造都市横浜の推進のため、文化観光交流拠点として、質の高いアートプログラムを国内外に向けて発信する
- ②象の鼻パークとの一体的活用により、利用者の利便性や象の鼻パーク全体のブランド力向上を目指す

I 運営/経営評価		実施結果	事業評価	
評価軸			自己評価(成果・課題)	委員会評価
1 無料休憩スペース/ 観光インフォメーション運 営	1 無料休憩スペースを年中無休で運営	●臨時閉館から再開後は年末年始を含み無休で運営を続けた。コロナ対策の徹底により来館者および従業員や関係者の感染報告はなく、無事故で締めくくることができた。	●新型コロナウイルスの影響により、年度始めは閉館で始まる異例の年となったが、来場者から感染者が出ることなく締めくくれたことは成果である。  ●従前の事業が予定通りできない中でも、日常的にアート作品を体験してもらえようガラス越しに外から見られるもの、展示中心の新規事業を立案し柔軟に対応した。  ●市民ボランティアガイドの活動は、従来の取り組みはできなかったが、無人の案内板のアイデアを出し合うなど自律的な活動ができている。  ●来館者数は元通りとはいかないが、サービスを工夫したりアンケートの収集で来館者のニーズを聞き取り、取り入れながら修正していきたいと思う。	●不特定多数の市民や観光客が利用する無料休憩スペースとして安心・安全の確保に努め感染者を出すことなく無事に運営できた点は評価できる。  ●コロナ禍のような不測の事態におけるリスクマネジメントとして、施設運営やイベント対応等の経験値やノウハウを共有するためのマニュアルとして残しておくよ。  ●来館者やイベント参加者の反応は、横浜市のリーディングプロジェクトだからこも他拠点とも情報共有し、アーカイブ化していくべき。  ●開館から10年以上経過したこともあり経年劣化が見られようになってきており、今後修繕箇所が増えてくることから、市や関係部署と協力して予算を含め計画的な修繕を行っていくとよい。  ●運営体制は安定してきており、スタッフのワークライフバランスは維持できていると思われるので、今後も継続してほしい。
	2 観光インフォメーションの実施	●観光インフォメーションにおいては、緊急事態宣言発令中は市民ガイドスタッフによる案内業務は停止。再開後はコロナ対策を講じながら無理ない運営体制で臨んだ。ガイドスタッフ有志がガイドに代わる無人館内掲示板を制作するなど工夫を凝らした。		
	3 日常的に質の高いアート作品・映像作品を館内に展示	●利便性向上を目的とした開館時間延長(金・土曜の19時まで開館延長)や時間外活用の催事については、例年より縮小しながらもコロナ対策を徹底して実施した。		
	4 利用者の利便性向上への取組	●来館者数の前年度比は、再開後の6月～8月は30%～40%を推移し、9月以降は80%台まで回復する月もあったが、全体としては50%に落ち込んだ。象の鼻カフェの客数も同様に、6月以降30%から始まり、秋には80%～まで回復するも、全体では約50%となった。		
	5 誰でも入りやすい空間づくり	●カフェでは次回利用時のサービスチケットを配るなど、客数獲得の対策を講じた。アンケート収集はオンラインに切り替え継続して実施。象の鼻テラスと、象の鼻カフェが主体で実施するBENTO PROJECT内で行なった。(集計数 テラス:53件、カフェ:38件)		
	6 営業時間の工夫(休祝前日の時間延長)			
2 運営体制	1 スタッフの配置状況(役割・人数)、勤務体制	●スタッフの配置状況については、コロナ禍でも人員削減することなく、昨年同様、専従者を含む7人体制で推進した。本社の方針に添い、計画休業や在宅勤務日を設けながらも人員を確保。労働負荷改善と業務内容の充実に向け、適時外部スタッフを配置して確実な運営に努めた。	●専従スタッフの人数を削減することなく推進ができたことは成果である。市民ボランティアガイドを含む市民サポーターにも無理ない範囲で業務に当たっていただき関係構築が継続できている。  ●今年度は新型コロナウイルス対策が主であったが、その他の災害のケースを想定した訓練にも取り組んでいる。危機管理マニュアルは常に見直し管理体制を維持していく。  ●各文化芸術事業の担当スタッフが専門性を身につけることは、文化芸術事業の推進においても多彩に活躍する効果につながると考えており、引き続き働きやすい環境づくりに努めていく。	
	2 緊急時の体制	●会議は極力オンラインを活用、密な環境では行わないなど、業務体制でもコロナ対策を講じた。		
	3 スタッフのスキルアップ、モチベーションアップ、ワークライフバランスのための取組	●スタッフのワークライフバランスのための取組では、業務内外関わらない活動の中で、各スタッフ自身が専門性を磨く時間を当てられるようサポート体制を整えている。		
3 施設の維持管理	1 施設の維持管理状況	●施設の維持管理については、定期的に設備点検を実施。修繕箇所について市担当者と情報共有しながら順次対応している。過年度の自然災害や経年劣化による箇所でも未完了ものは、引き続き安全上の優先度が高いものから修繕にあたるよう努めていく。	●今年度は、新型コロナウイルス対策に対応する備品等を揃えることを優先度高く取り組み、その他のメンテナンスについても順次進めた。今後も来場者が安全に利用できるよう、速やかに修繕に当たりたい。	
	2 施設の小規模修繕・改善状況	●新型コロナウイルス感染症拡大防止策にかかる備品・設備を各種整えた。アルコールやマスクは随時確保し、非接触型検温機は横浜市からの支給品に加え、象の鼻テラスでも準備した。飛沫対策のビニールシートの装備も手配し、イベント開催に備えた。		
	3 安全対策、安全管理体制	●各催事で出入りする関係者や、一定時間を拘束するタイプの催しや催事の種類によって参加者を対象に、来場時の検温実施と消毒を呼びかけ、記録に残すことを徹底した。		
		●今年度から防火管理責任者、衛生管理責任者の役目は施設長が担い、非常時対応について随時スタッフの指導に当たった。災害対策として消防訓練は年2回実施した。		



※自己評価のチェックについて：取組に対する姿勢や成果を自己分析し、10段階で記載すること。目標に対して、概ね良好を「5」とし、目標以上の成果が見込めたものを「6」～「10」、目標を下回ったものを「1」～「4」の範囲で、記載する。

Ⅱ 創造性／政策達成評価		事業計画(要旨)		実施結果		事業評価		
評価軸		評価の着眼点		事業計画(要旨)		自己評価(成果・課題)		
						【チェック】		
						委員会評価		
1 創造都市横浜の推進のため、文化観光交流拠点として、質の高いアートプログラムを国内外に向けて発信する	文化芸術事業							
	1	質の高いアートプログラムを国内外に向けて発信する事業 □新規性・独自性の高い活動並びに象の鼻地区の特性を生かした国際性の高い事業の展開 □多様なアーティスト、クリエイターへの活動の場の提供 □多様な文化芸術活動主体との連携	・PORT JOURNEYS: ディレクターズミーティングを横浜で開催、「We Trees!」フェスティバルを実施 ・ゾウノハナ・パレエ・プロジェクト: 若手ダンサーの育成と定期的な成果発表、地元のパレエ団旗揚げに向けた推進体制づくり	●ディレクターズミーティング(DM)はオンライン開催に切り替え、8都市から約20名が参加。●weTrees Tsurumiは実行委員会立上げ。議論を深めた●showcaseシリーズ内でバンコクのアーティスト、ジュリ・ペーカーを紹介。作品展示とオンラインWSを開催 ●ワークショップ開講ではオンラインを取り込んだ。幅広い世代を対象とした内容に発展させた。●クリエイションの発表は2021年度1月に延期。●講義シリーズ「ZAGAKU」を始動。安藤氏が関心を寄せる表現者から、表現手法やこだわりを学ぶトークシリーズ。	●臨時閉館から再開後は、コロナ禍に対応し企画内容・スケジュールを大きく変更した。実施形態が変わり、どう自己評価すべきか難しいが、柔軟に対応し、活動が途切れないよう努力したことは成果。 ●全体的に、オンライン活用や、ガラス張り建築の特徴を生かし様々なプログラムを実施。医療従事者に向けた「ブルーライトアップ」やアーティスト支援を目的に始動した「ギャラリーシリーズ」など、コロナ禍に対応し実施したことは、アーティストおよび市民に希望を抱いていただける機会になったと考える。	●自己評価でも指摘しているように、コロナ禍にあってもその時にできることを考え出し、柔軟に対応しつつ事業を継続してきたこと、また、これまでの委員会の指摘を受けて、常に改善を図っている点は評価できる。		
	2	まちづくり、賑わいづくりに資する事業 □象の鼻パークとの一体的活用 □都市文化観光への寄与 □都心臨海部の立地環境、歴史性を意識した企画・活動	・フューチャースケープ プロジェクト: フェスティバル開催 ・ZOU-SUN MARCHÉ: 企画性・国際性を高めたマルシェを開催 ・SNACK ZOU-NO-HANA: 文化芸術に触れる機会・市民の活発な交流の場を創出	●2019年度からコンセプトを発展させ継続開催。「Creative Railway」事業の一環として開催。日本大通り駅、日本大通りまで広範囲で実施した。●イギリス、中国、横浜3都市のサミットを開催。 ●臨時閉館から再開後しばらくはイベント開催を自粛。9月以降で徐々に再開していった。特別版マルシェはほとんどが中止。イベント自粛期間の展開として、ウェブページやSNSで店舗紹介を実施。発信を続けた。 ●恒例の合唱イベントはオンライン開催に切り替えた。国内外から延べ50人余りが参加。●時間外活用のプログラムは多数を中止・延期を余儀なくされた中でも、飛沫防止シートの設置や人数制限・事前予約など対策を講じて、音楽イベントは4回、映画会は3回実施。	[PJ]オンラインを活用により参加が得られやすく広がりがあった。鶴見小野での事業は地元と合意形成を図るまでに留まった。 [BALLETT]クリエイション発表の延期、レッスンの頻度も下がった一方、オンライン活用、幅広い世代を対象とした内容の発展、講座企画の始動など挑戦を続けた。 [FSP]活用する公共空間を拡大できた。コロナ禍に対応しながら実験的なプログラムを多数実践できた。オンライン活用により国際サミット開催を続けられた。 [MARCHÉ]コロナ禍で開催が難しい中、情報発信、新規店舗開拓など活動を継続できた。オンラインを活用した新たな展開を検討したい。 [SNACK]オンライン合唱では新聞に取り上げられ話題がくれた。徹底した対策で感染者をだすことなくイベント開催を続けることができた。 [ATELIER]コロナ禍でも工夫し実践を続けられた。オンライン活用の企画も今後取り入れていきたい。 [ETB]メンバーの自律的な活動が継続できている。既存ガイドコンテンツを今後発展させたい。 [ダンス緑日]特設ウェブページを新設したことは成果。新しいオンライン活用の可能性について検討したい。	・PORT JOURNEYS「we Trees Tsurumi」のプロジェクトは、これまで象の鼻テラスの中でやってきたことを施設外もついでに、外のコミュニティとの繋ぎ方、アートプロジェクトとしての完成度、市民参加などをどう展開していくかが重要となるため、経過を見守ってきたい。 ・ゾウノハナ・パレエプロジェクトはシニアの方も参加されており、意図はしていないが社会的処方としての面の効果も生まれていると思う。また、シニア向けだけでなく多様な年齢層を対象としている点は市民を対象としたプログラムとしての姿勢は評価できる。		
	3	市民にとってより身近で開かれた事業 □市民参加プログラム、教育プログラムの充実 □市内教育機関、文化施設等との連携 □ガイドボランティアの自立性強化	・Atelier ZOU-NO-HANA: KO-ZOU CLUBの登録者数と活躍の場を拡大 KO-ZOU CLUBメンバーが象の鼻テラスの活動に係る企画を立上 ・ETB(エレファント・トラベル・ビューロー): 象の鼻ならではのアートツーリズムを追求 ・ダンス緑日: クオリティ向上に向けた検討(参加団体の審査など) 世界交流・食とのコラボレーション	●横浜市民芸術文化教育プラットフォームでのコーディネーターは3校を担当。身体表現、音楽の分野で、体験・鑑賞型のプログラムを実施。●コロナ禍の需要に合わせ、オリジナルのマスクを開発。スタンプを押す体験をセットにし、ものづくり体験の要素を組み込んだ。 ●対面案内の中止により継続事業のイベント的なツアーは中止。●メンバー発案により無人案内掲示板を自作し、対面せずに案内ができるアイデアを実践した。 ●大量集客を目的としたイベントのため開催中止。オンライン上で発表の場として、新たにウェブページを立ち上げ公開。過去出演者のうち24組が参加。	8 ・公共空間活用の事例が増えてきているが、一般的な内容に落ち着いてきている部分がある。全体的なクオリティコントロールとして、象の鼻テラスらしさを忘れずにプログラムを展開してほしい。 ・今後、安全、安心がより重要視されるキーワードとなってくるため、施設運営や事業展開では意識をするとよい。また、こういった活動は、SDGsの取り組みでもあるので、このようなキーワードも取り入れて活動を展開するとよい。			
	文化芸術事業							
	4	□横浜市主催事業、横浜市の政策に沿った事業、創造界隈拠点と連携した事業等への開催場所提供	・スローレーベル/ヨコハマ・パトリエナーレ ・その他協力事業	●ヨコハマ・パトリエナーレが3回目、フェスティバル形式としては最終回を迎えた。コロナ禍によりリアルでのイベントやワークショップの実施が難しくなったため、事業のオンライン化に取り組んだ。オンライン開催にあたり、インターネットの扱いが難しい方を対象にしたチュートリアルや案内資料の作成にも力を入れた。				
	文化芸術事業							
	5	□カフェからの積極的な文化発信	・オリジナルイベントの開催 ・文化芸術事業との連動	●BENTO PROJECTでは、オンラインでのレシピ公開、試供品プレゼント等、自宅で安全に楽しめる内容で実施。象の鼻テラスの芸術文化事業と連動し、屋外販売や時間外営業に取り組んだ。アンケート収集で得たニーズに応じ、平日限定メニューや季節限定のメニューを販売。テイクアウト強化にシフトし、キャッシュレス決済を導入。	[SLOW]集大成の年とコロナが重なってしまい大きく影響を受けたが、挑戦する姿勢を提示できたと考え。 [カフェ]客数が従前に戻るまでまだかかるが、その中でも食を通じ楽しんでもらえるよう実践を続けた。			
	2 広報活動により施設及び事業の効果的な周知を行う	1	□象の鼻テラス及び各事業の効果的な広報活動・情報発信 □創造都市横浜のPRにつながる広報活動・情報発信 □出版物、映像資料等の作成、発行 □海外を意識した情報発信(バイリンガル対応)	<施設広報計画> ・公式WEBサイトへのコラムページ新規開設 ・SNSと公式WEBサイトにおける情報発信 ・メールニュースを国内外に発信 ・日英バイリンガル化の徹底 <事業広報計画> ・事業趣旨に合わせた手法を活用、バイリンガル化 ・オウンドメディアを活用した発信 ・アーカイブの作成	●施設広報では、臨時閉館から再開後しばらくは積極的な来場呼びかけを自粛し、開館直後は公式ウェブサイト・SNSによる発信にとどめ、徐々に再開していった。●オンラインツールを活用したイベントを通じて情報発信に繋がった。(Zoomウェビナー活用イベント:2件、Facebookライブ:1件、インスタライブ:1件、Youtubeライブ開催:1件)※参加者を限定するものは含まず ●各事業の広報活動については、数年前より環境問題への配慮から、紙媒体の告知物について削減を心掛けていたが、今年度は新型コロナウイルス対策もあり、なるべくオンライン上で情報発信に努めた。事業アーカイブではFSP、PJなどで記録集を発行した。	●オンラインイベントは、物理的距離のある遠方からも参加が得られ、認知度向上につながった。開催が情報発信となるため今後も引き続きオンラインを活用したスタイルを模索していく。 ●目標に掲げたコラムの新規開設については、実施に至らなかった。引き続き効率的に取り組める内容で検討を続ける。	7 ・オンラインを活用した事業展開を転換し、積極的、かつ臨機応変に活用しておりコロナ禍に柔軟に対応している。	

**【総評】**  
 ・コロナ禍においても、基本方針の達成に向けて様々な工夫の中で事業を進められてきたことは高く評価できる。  
 ・事業の選択と集中が進んだことで洗練されてきており、特に、市民参加型を中心とした事業は、象の鼻テラスらしい個性が明確になってきている。  
 ・体制や事業内容は充実してきているが、事業運営の方法等の工夫の余地はまだあるため、現状の手法にこだわらずにチャレンジしてほしい。

**【市の取り組むべき事項】**  
 ・歴史、経験値が集積した施設であり、市の施設として定着しているため、創造界隈拠点としての持続的な発展につながるよう運営団体とコミュニケーションを取りながら支援すること。  
 ・事業のクオリティ評価のため、委員が拠点の主要事業のモニタリングを行えるように情報提供を行う。  
 ・拠点のコロナ禍の非常時対応をアーカイブ化し、創造界隈拠点全体で共有できるといい。

**【総評】(令和元年度)**  
 ・国有地、港湾施設として制約が多い施設運営にもかかわらず、市民を対象とした質の高い多彩なプログラムを実施し定着させている。10年間に築き上げた実績は大きい。  
 ・これからの5年、10年を見据えたうえでフューチャースケープ・プロジェクトのような意欲的なプロジェクトを実施し、新たな可能性と方向性を見つけたことは評価できる。

**【総評】(平成30年度)**  
 ・港にあることの特質や市民への開放性など、象の鼻テラスらしさのある企画が行われている。  
 ・10年という時間をかけて象の鼻テラスというブランドが確立されている。ここにしかない、かつ、市民に開かれた空間が、市民からの提案という形で実現する可能性があることが、他の拠点と違う特徴であり成果である。  
 ・分科会で出た課題についてはきちんと改善・向上するよう努力されており、少ない人数でしっかり運営していることは評価できる。

**【総評】(平成29年度)**  
 ・無料休憩所の運営と文化観光交流拠点の運営の両立という難しいミッションのもと、総合的に質、量ともにレベルの高いプログラムを実施している。  
 ・事業者の努力により、運営における人員体制は改善されてきている。  
 ・フューチャースケーププロジェクトは、これからの象の鼻テラスにとって重要なプロジェクトなので、市とワコールとの両輪で進めてほしい。市民との話し合いもキックオフイベントの1回だけでなく、続けていけるとよい。また、その成果も公開するなどして、なるべく多くの市民と共有できると良い。

**【総評】(平成28年度)**  
 ・例年、施設の規模や人員以上の、質、量ともに高いプログラムを実施してきている。  
 ・これまでの8年間の事業の積み上げが、象の鼻ブランドとして市民の間に定着している。  
 ・年度ごとの目標を設定し、その中で課題の解決に向けて動くというマネジメントサイクルが構築されている。

# 令和2年度 事業評価シート

拠点名: THE BAYS(旧関東財務局横浜財務事務所)

運営期間: 平成28年度～令和12年度 (4年目/15年間)

## 【基本方針(使命・理念)】

- ① 関内・関外地区における創造産業の集積をさらに推進し、これを横浜経済の活性化につなげる
- ② 旧関東財務局の活用を通じて日本大通り地区の賑わい創出を図る

I 運営/経営評価		実施結果	事業評価	
			自己評価(成果・課題)	委員会評価
1 ＜施設の運営状況＞	1 賃料を滞りなく支払っているか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1度遅延があったが、当該月以外の賃料は滞りなく支払っている。</li> <li>・文化財の価値を損なわないようにするため、社内で新たな取り組みが検討される際には、施設管理担当が必ず施設面についても確認を行うようになっている。</li> <li>・コミュニティスペースの利用状況については、事業報告書のとおり。コロナ禍の影響を受け、観光イベントのみの利用にとどまった。</li> <li>・3階会議スペースの利用状況については、事業報告書のとおり。コロナ禍により4月・5月は休館となったが、6月以降は徐々に利用が回復した。</li> <li>・事業報告書のとおり、関内外地区における創造産業の集積のさらなる推進、日本大通り地区の賑わい創出につながる運営をしている。</li> </ul>	<p>施設運営については、コロナ禍の影響を大きく受けたが、オンラインを活用するなどして事業を実施した。</p> <p>コロナ禍においても利用しやすいようWEB会議等に対応したレイアウト変更を検討し、令和3年度に実施した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の厳しい状況において、オンラインでの活動実施、ウェブ会議による会議室の活用促進に向けたレイアウト変更、屋外空間の活用等、活動継続を実施することができたとともに、今後にも活かせる結果も得られたと思われるため、将来の発展が望まれる。</li> <li>・これまでの利用者層のみならず、女性や高齢者などを含めた幅広い市民層にも利用してもらえるような戦略もあるとよいと思われる。</li> </ul>
	2 文化財の価値を損なわず、建物の歴史を生かした活用を行っているか？			
	3 コミュニティスペースがクリエイター・企業等の交流の場として十分利用されているか？			
	4 3階会議スペースがラボ会員等に十分利用されているか？			
	5 事業計画協定書における事業計画を基本に、事業目的に適った運営がなされているか？			
2 ＜広報活動＞	1 施設及び各事業の効果的な広報活動・情報発信が行われているか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンなトークイベント、ワークショップ等の発信コンテンツを定期的に開催している。</li> <li>・自社HP、拠点HPを中心とするオウンドメディア.SNSを活用した効果的な広報活動、情報発信に取り組んでいる。</li> <li>・プレスリリース等を通じて外部メディアへのイベント告知など戦略的に進めることができている。</li> <li>・1FにPRコーナーでは、他の創造界隈拠点で行われるイベント等のちらしを配架し、創造都市横浜のPRを行っている。</li> </ul>	<p>引き続き、球団公式SNSやプレスリリース・各イベントの趣旨に合わせたメディアへのアプローチに尽力した結果オンラインでも安定的に集客することができたほか、施設の知名度向上にもつながったと考えられる。</p>	
	2 創造都市横浜のPRにつながる工夫がなされているか？			
3 ＜施設の維持管理＞	1 施設を法令遵守して維持管理しているか？ (特に文化財として)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の維持管理では、日常清掃と定期清掃をニッソーサービス株式会社へ、設備管理や各種点検は株式会社相鉄企業へ委託し、維持管理に努めている。</li> <li>・施設の変更や修繕については、毎月、横浜市文化観光局様へ維持管理報告書を提出しているほか、利用方法の変更を検討の際にも、文化観光局様へ事前に相談し、都度、判断を仰ぐようにしている。</li> <li>・安全対策、安全管理は、ニッソーサービス株式会社と相鉄企業株式会社とも都度連携し、法令で定められた点検、検査などを実施している</li> </ul>	<p>建物が文化財であることを十二分に踏まえ、法令に遵守して維持管理をしている。</p> <p>また、安全対策、安全管理についても怠ってはならず、その結果、これまで無事故で施設の維持管理をできていると自負している。</p>	
	2 施設の変更や修繕について決められた通り報告しているか？			
	3 利用方法の変更などについて事前に報告・相談をしているか？			
	4 安全対策、安全管理をしっかりとした体制で行っているか？			

※自己評価のチェックについて:取組に対する姿勢や成果を自己分析し、10段階で記載すること。目標に対して、概ね良好を「5」とし、目標以上の成果が見込めたものを「6」～「10」、目標を下回ったものを「1」～「4」の範囲で、記載する。

Ⅱ 創造性／政策達成評価		事業計画(要旨)		実施結果	事業評価	
評価軸	評価の着眼点				自己評価(成果・課題)	委員会評価
1 関内外地区における創造産業の集積をさらに推進する	1 スポーツ×クリエイティブというコンセプトを体現する活動、事業等を総合的に実践できたか?	・Next Ballpark Meeting等アイデア出しのWS実施 →アイデアの実現3回以上	・アウトドアプログラムの実施	コロナ禍の状況に合わせて、オンラインとオフライン両軸にて、イベントを実施することでイベント実施回数・参加人数ともに例年以上となり、スポーツ×クリエイティブを体現するコンテンツを数多く実施することができた。 DeNAランニングアカデミーを絡めたイベントや、クリエイティブレイルウェイ等に参加し、アウトドアプログラムの実施ができた。	【成果】 観光プロジェクト等で、街を楽しむツアーの実証実験を行ったことで、来年度以降に繋がる取組みができた。 CSLでのオンラインイベントや、&9のデリバリーサービスなどに挑戦したことにより、今まで物理的に足を運んでもらうのが難しかった人にもTHEBAYSに触れてもらう機会を醸成できた。  【課題】 なかなか集客できない中で、オンライン等を用いて、どう他の拠点と連携していくか、検討の余地がある。	8
	2 新たなイノベーション・創造産業の創出・集積に向けた活動が進んでいるか?(創造産業創出にかかる人材等の集積や出口の創出に向けた活動が進んでいるか?)	・YOKOHAMA Sports Town ACCELERATORの実施 →採択企業1社以上	・他スポーツ他業界との連動	YOKOHAMA Sports Town ACCELERATORを実施し、3社を採択。観光プロジェクトを実施し、アイデアの具現化・商品化のパッケージを作ることができた。またそれにより活動の範囲を広げること・これまで連携したことがなかった人を巻き込むことができた。 オンラインでのイベント実施を取り入れることにより、これまで登壇していただくことが難しかった他業界の著名な方の登壇の実現や継続的な連携を実現することができた。 コロナ禍のなかでCSLの施設の運営を休止したり、オフラインでのイベントや交流会を中止としたため、数の目標には達しなかったが、会員との継続的な打ち合わせを通じてコラボした観光プランのイベントを実施することができた。		
	3 創造界隈のクリエイター、企業、大学、市民、行政との交流・連携が促進されているか?	・会員とのコラボイベント・WSの実施 →CSL会員との共同企画実施3回以上、CSL会員同士のマッチング3回以上		Disneyとのコラボ商品の販売を実現。さらにお客様へのヒアリングを通し、お客様ニーズに併せた商品製作を行った。 各フロア合同のキャンペーンなどを実施し、再来館促進と売上向上に繋げることができた。 実施までは至らなかったが、関内外で活動する2団体と連携し、継続的に実施できる2日間×2コースのキッズアカデミーを商品化のパッケージを制作することができた。(2021年5月に実施済み)		
2 本施設の活用を通じて日本大通り地区の賑わい創出を図る	1 日本大通り地区の賑わい創出に貢献しているか?	・新たなブランドとのコラボ商品展開	・THE BAYS連携イベントの実施	コロナの影響を受け、日本大通りを利用した野球イベント自体が中止となったため連携企画の実施はできなかった。 新しく初めた観光プロジェクトなど、スポーツを軸としながら、関内外へ展開できる施策を検討・実施している。	【成果】 新型コロナウイルスの影響で、イベントを通じたTHE BAYS及び日本大通りの賑わいの創出に貢献することは難しかったものの、お客様のニーズに合わせてオープンテラスや中庭などを有効活用し、TAKE OUTメニューの充実など臨機応変に対応でき、日常の賑わいは徐々に取り戻している。  【課題】 withコロナの中で感染予防対策を行いながらどのように日本大通り地区に賑わいを取り戻していくか検討していく必要がある。	6
	2 日本大通り地区の事業に参加・協力しているか?		・日本大通り・中庭の活用			
	3 スポーツ×クリエイティブという視点から、創造界隈の形成や関内外の活性化にも活動を広げているか?					

**【総評】**  
 コロナ禍において、事業自体が中止・延期となる施設も多い中で、オンラインや運営団体の工夫を通して、活動を継続し、かつ発展させてゆくことができた点はよかったと思われる。今後、こうした活動の認知・発信を強化するためにも、公民連携を通じて各方面からアプローチするとともに、横浜スポーツタウン構想を始めとして、地域や地域のクリエイター、他の拠点等との連携を通じて活動を発展させていただき

**【市の取り組むべき事項】**  
 左記の内容を実現してゆくためにも、広報発信の強化、経済局等との連携構築、他拠点とのコラボレーション、規制緩和の検討など、市も積極的な協力・連携・発信などをサポートに努

**【総評】(令和元年度)**  
 ・4年目を迎えて、活動としては非常に活発化しているが、創造産業に関する活動のアウトプットが不足している。外部との連携も踏まえた創造産業の集積の促進と発展に向けて頑張してほしい。  
 ・内部の活動を外に見える化していくためにも、中庭の活用など、官民連携してほしい。

**【総評】(平成30年度)**  
 ・創造産業の集積に対する取組みを行っており、成果が会員数の増加などの数字に表れている。  
 ・新規の取り組みへの投資もしながら健全経営をしている。  
 ・ACYや市との協働も行っており、昨年度の課題を受け止め、それを丁寧に実施している。

**【総評】(平成29年度)**  
 ・入口としての取組は、数多く実施しており評価できる。  
 ・今後さらに、活用事業者と市の協力(及び他の拠点との連携)により、アウトプットの発信・販売戦略等を協力して練り、各取組を創造産業の創出・集積という出口につなげていく必要がある。

**【総評】(平成28年度)**  
 ・CSLについては、事業目的に沿った、競争力の高いクリエイターや企業が初動の段階で会員となっている点が評価できる。  
 ・他の拠点にはない、一般企業と創造界隈拠点をつなげる役割を担っている点が評価できる。  
 ・事前の戦略的な広報等により、多数のマスコミにとりあげられ、話題づくりに貢献した。  
 ・建物の歴史をうまく活かして、良いデザインの空間づくりができています。

## 創造都市施策の方向性の検討

「これからのクリエイティブシティ・ヨコハマを考える」  
について

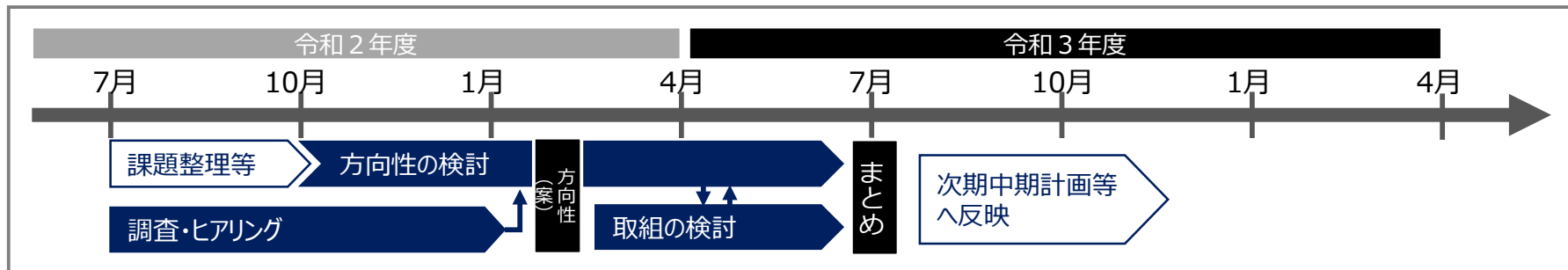
令和3年7月14日  
横浜市文化観光局創造都市推進課

# これまでの検討内容

10年後の創造都市施策の方向性を検討するため、次の取組を実施しました。

- これまでの事業に関する評価や調査、関係者ヒアリング等を通じた現状と課題の把握
- 現状と課題を踏まえ、次の方向性を「創造界隈の目指すべき姿」として整理

## 【検討スケジュール】



# 現状と課題（R2検討内容）

## 【現状】

- 2004年より文化芸術・創造的産業・まちづくりによる都心部活性化の取組を進め、「クリエイティブ・コア-創造界限形成」、「映像文化都市」、「ナショナルアートパーク構想」のプロジェクトをはじめ、個々の事業や創造界限拠点の取組は着実に実績を積み上げている。
- 関内・関外地区へのアーティスト・クリエイターの集積が進み多様な人材が集まるとともに、歴史的建造物や公共空間などの地域資源の活用が行われた。
- 初期の勢いと比べた安定した事業展開、成果の見えづらさ等により停滞感という印象。

## 【課題】

- アーティスト・クリエイターや企業のニーズが高い交流・活動の機会の拡充を図る必要がある。
- 都心臨海部に様々な拠点や担い手が集積しているが、単発での事業展開が多く、エリア全体で連動した事業展開となっていない。
- 既存事業での海外との交流が進んだ一方、世界のトップレベルとの交流の機会がない。
- アーティスト・クリエイターの活動が他分野や都心臨海部以外に広がっているが、都市全体での魅力向上やブランディングにつながっていない。
- 市民への創造活動の体験の機会の拡充を図る必要がある。
- 地域資源を有効に活用するため、公設、民設を含めた歴史的建造物の活用、柔軟な公共空間の活用を一層進める必要がある。
- 市の支援制度だけでなく、民間も含めた持続的な活動を支えるスキームを検討していく必要がある。

# 創造界隈の目指すべき姿（R2検討内容）

## ①活発な創造活動

創造活動の担い手たちの交流、活発な活動が次々に起こることで横浜のポテンシャルを高め、多様な人材が集まり新たな創造活動につながる好循環を生み出す。

## ②国際性

開港以来の海外との玄関であるまちの歴史をふまえ、これまで培った海外とのネットワークに加え、新たな海外交流や横浜発の海外に向けた活動のきっかけをつくるとともに、世界のトップレベルとのネットワークがひろがる。

## ③活動領域の拡大

創造活動の担い手たちの活動により創造活動の領域が教育・福祉・まちづくりなど多くの分野に広がり、人々が創造活動を体感できる機会が増えるとともに、人々の創造性が豊かになる。

## ④空間活用

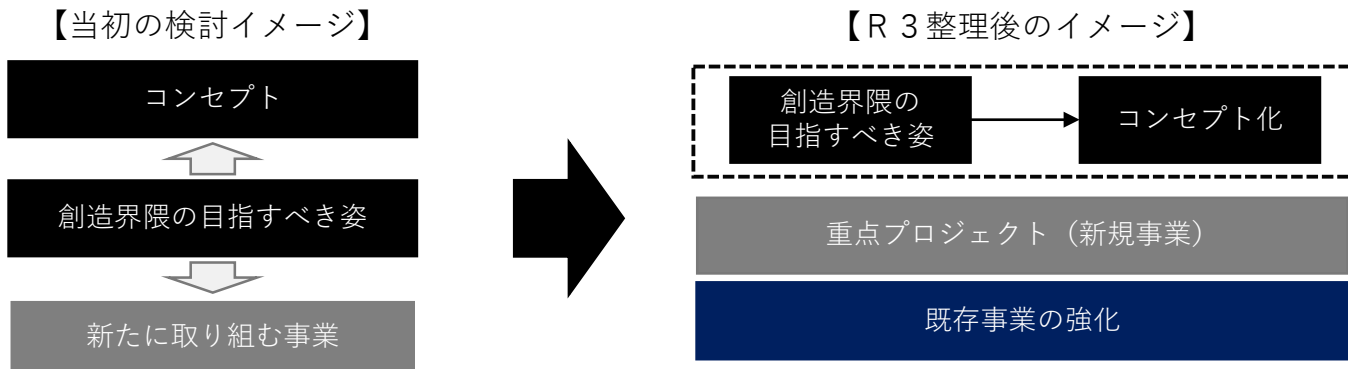
開港当時の面影を残す歴史的建造物、港・水際線が身近にある都市空間、都心機能がコンパクトに集積した都心臨海部の魅力を生かしつつ、創造活動が生み出される空間活用がひろがる。

## ⑤創造活動の支え手

創造活動が付加価値の高い横浜らしい先進的な取り組みを生み、活動の場や環境づくりへ投資する支え手が増える。

「創造界隈の目指すべき姿」をもとに、次のとおり検討を進め全体像を整理しました。

- 今後重点的に取り組んでいく内容を検討し、重点プロジェクトとして位置づけ
- 既存事業の中で、「創造界隈の目指すべき姿」を実現するために既存事業でより推進していく取組を検討





## ビジョン

### 創造活動

同時多発的な活動・交流が  
生まれる持続的な基盤の拡充

### 国際性

国際交流や海外に向けた  
活動の展開

クリエイティブシティ・ヨコハマ ビジョン2030

### 都市空間

横浜らしさが感じられる  
都市空間の創造的活用

### クロスオーバー

産業をはじめとする多様な  
ジャンルとの領域横断

### 支え手

産学による活動の場や環境づくりへの投資

## 重点プロジェクト

### 重点プロジェクト①：都市空間を使った創造界隈の見える化

- 規制緩和等による都市空間の創造的活用の促進
- 都市空間を使ったクリエイティブなナイトタイムが楽しめる環境づくり



### 重点プロジェクト②：アートによるイノベーション創出

- 集積した企業・スタートアップ・教育機関等との連携によるイノベーション促進
- アート市場活性化を通じた文化と経済のエコシステムの形成



## 既存事業の強化

### 事業①：民設・公設の拠点による創造界隈の形成

- 民間の自律的な活動の活発化と、民間・公設それぞれの拠点が都心臨海部に広がる、界隈性の創出。



### 事業②：中間支援機能の拡充

- ACY等による中間支援機能を拡充し、充実した支援プログラムを実施



### 事業③：国際的なネットワークの強化

- YPAMやトリエンナーレ等の国際的イベントや、創造界隈拠点のAIR等の機会をとらえた海外とのネットワークの強化

